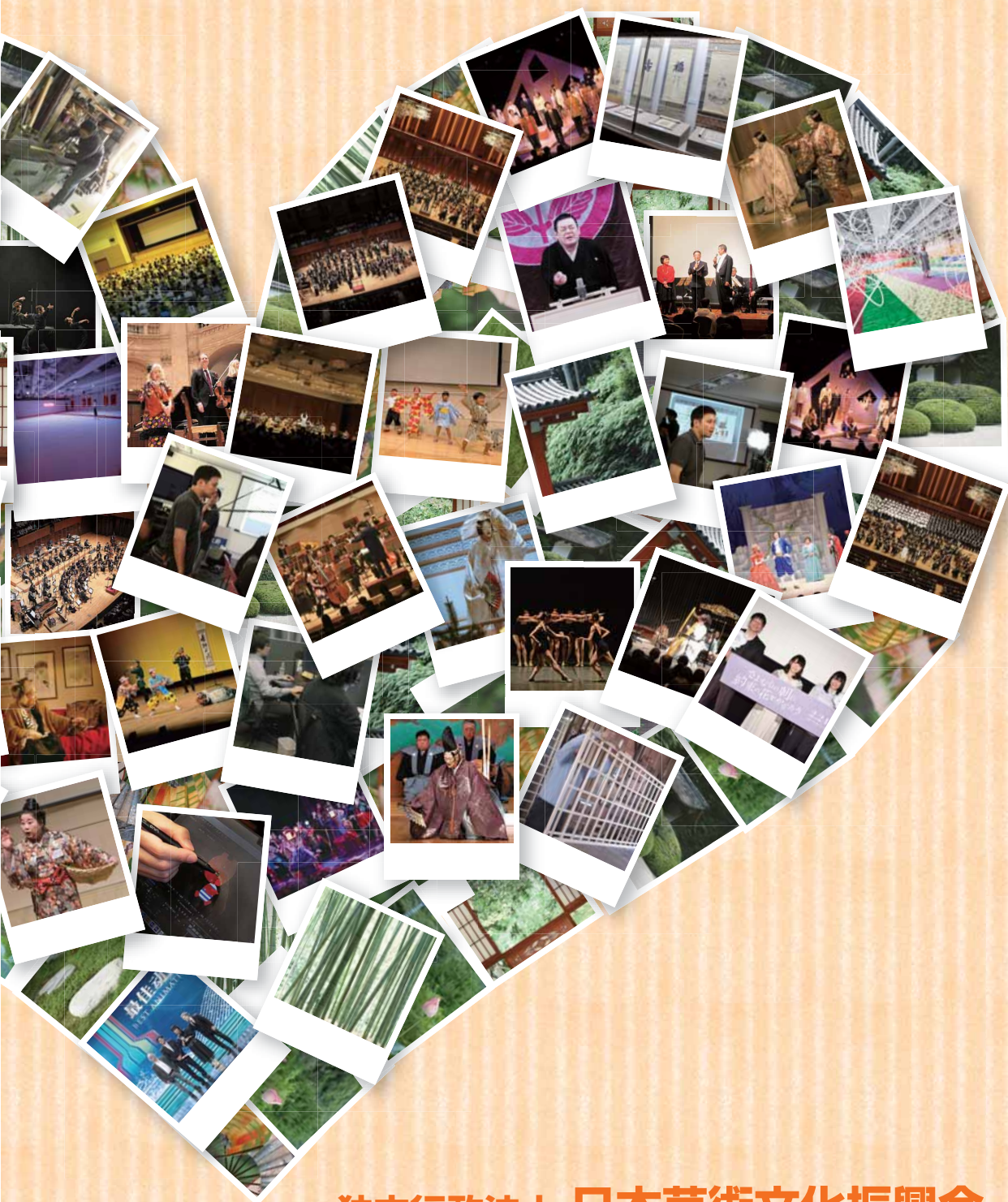


平成29年度

# 芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

# 目次



## 芸術文化振興基金助成事業

### 助成対象者インタビュー

特定非営利活動法人 琉球交響楽団

### 舞台芸術等の創造普及活動

- 1 音楽**  
サントリー芸術財団サマーフェスティバル 2017 公益財団法人 サントリー芸術財団
- 2 音楽**  
第 117 回・118 回・119 回定期演奏会 公益社団法人 大阪市音楽団
- 3 舞踊**  
踊る戯曲Ⅳ『BALLO ～ロミオとジュリエット～』 CHAiroidPLIN
- 4 演劇**  
劇団企画ミュージカル『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 株式会社 オールスタッフ
- 5 演劇**  
巡回学校公演 株式会社 すわらじ劇園
- 6 伝統芸能の公開活動**  
新作能『面影』 公益財団法人 金剛能楽堂財団
- 7 美術の創造普及活動**  
「YCC Temporary」 特定非営利活動法人 YCC (YCC ヨコハマ創造都市センター)
- 8 多分野共同等芸術創造活動**  
ガムランが織る～博多織サウンド・プロジェクト 藤枝 守

### 国内映画祭等の活動

- 9 国内映画祭**  
第 26 回 しまね映画祭 しまね映画祭実行委員会
- 10 日本映画上映活動**  
第 11 回江東シネマフェスティバル 映画のまち深川  
—小津安二郎の生まれたところ— 公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団

### 地域の文化振興等の活動

- 11 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演）**  
小学校訪問アーティストによるニューイヤー・ファミリーコンサート 2018 公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団
- 12 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）**  
特別展「乙訓郡誌の編纂とその時代」 かもろし 向日市
- 13 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動**  
歴史的景観都市協議会紹介リーフレット作成及び  
歴史的景観都市普及啓発活動 歴史的景観都市協議会
- 14 民俗文化財の保存活用活動**  
平成 29 年度小田原民俗芸能保存協会後継者育成発表会 小田原民俗芸能保存協会



---

**15** **アマチュア等の文化団体活動**  
第 23 回しまくとぅば語やびら大会 沖縄県文化協会

---

**16** **伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動**  
装演修理に必要な道具・原材料の製作技術に関する  
伝承者養成のための記録映像の製作（表装建具製作） 一般社団法人 伝統技術伝承者協会

---



## 文化芸術振興費補助金助成事業

### 舞台芸術創造活動活性化事業

**17** **音楽**  
定期演奏会 公益財団法人 九州交響楽団

---

**18** **舞踊**  
貞松・浜田バレエ団「創作リサイタル 29」 一般社団法人 貞松・浜田バレエ団

---

**19** **演劇**  
ワンツーワークス #23  
『消滅寸前（あるいは逃げ出すネズミ）』 株式会社 オフィス ワン・ツー

---

**20** **伝統芸能**  
第十五回 金春円満井会特別公演 公益社団法人 金春円満井会

---

**21** **大衆芸能**  
2017 芸協らくご・名古屋寄席 公益社団法人 落語芸術協会

---

### 映画製作への支援

**22** **劇映画**  
寝ても覚めても 有限会社 ビターズ・エンド

---

**23** **記録映画**  
フジコ・ヘミングの時間 株式会社 祭

---

**24** **アニメーション映画 長編**  
さよならの朝に約束の花をかざろう 株式会社 バンダイナムコアーツ

---

**25** **アニメーション映画 短編**  
ふうせんいぬティニー なんだかふしぎなきょうりゅうのくに！ 株式会社 CRAFTAR

---

参考 芸術文化振興基金による助成

---

文化芸術振興費補助金による助成

---

文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について

---

## 沖縄ならではのオリジナリティを活かし クラシック音楽をもっと身近に

助成金を利用したことがない人にとって、応募までの手順や書類作成、基金の担当者との関係など、不安なことは多いと思います。そこで、2017年度の芸術文化振興基金助成事業に応募し、舞台芸術等の創造普及活動（音楽）の助成を受けた特定非営利活動法人琉球交響楽団の高江洲貴美恵さんと根間安代さんに、助成制度を活用した体験を語っていただきました。

特定非営利活動法人 琉球交響楽団

助成金額 1,345千円

### プロフィール

高江洲貴美恵（たかえす・きみえ）：特定非営利活動法人 琉球交響楽団 事務局長（写真右）  
根間安代（ねま・やすよ）：特定非営利活動法人 琉球交響楽団 クラリネット奏者（写真左）



### 活動概要

琉球交響楽団は2001年設立。沖縄に暮らす人々に対する音楽文化の提供、国際交流及び人材育成に関する事業を行う。2006年、特定非営利活動法人沖縄音楽文化交流機構として法人設立、2015年、現名称に変更。楽団員38名を擁し、年2回の定期演奏会、学校芸術鑑賞教室、「0歳児からのコンサート」シリーズを開催するほか、沖縄本土復帰30周年・40周年式典演奏、太平洋島サミット式典演奏、沖縄県主催県民クラシックコンサート等多彩な演奏活動を続けている。現音楽監督は指揮者の大友直人。

〒901-2114 沖縄県浦添市安波茶 1-31-1 伊波ビル 202  
Tel: 090-9783-7645（事務局） URL: <http://www.ryukyusymphony.org>

### 助成実績

2015年度より定期演奏会を対象に当助成金に申請、3年連続で採択される。2017年度の対象となったのは第32、33回定期演奏会。第32回は2017年9月22日、沖縄市民会館（沖縄市）にて1回公演、これまで希望の多かったベルリオーズ「幻想交響曲」や琉球大学名誉教授で作曲家・中村透の新曲委嘱作品他を演奏した。第33回は2018年3月4日、てだこホール（浦添市）にて1回公演、気鋭の若手チェリスト・宮田大をソリストに迎えたドヴォルザークのチェロ協奏曲、沖縄出身の作曲家・新垣雄による琉球古典楽器との組み合わせが好評を博した。

### 申請から助成決定

#### ▶ 公的助成金で増す「信用度」

—— 助成を受けようと思った理由を教えてください。

**根間** 私たちの楽団は自前のホールや練習所を持っていませんから、年2回の定期演奏会でも会場費がかかります。沖縄という立地なので指揮者やソリストの旅費もどうしても嵩みますし、チケット収入だけでは満席になっても採算が取れないんですね。

**高江洲** お客様の満足度を考えると、大編成での大曲にも挑戦していきたい。それにはエキストラも必要ですし、ソリストをお呼びするにも助成金をいただかないと難しいのが現状です。沖縄アーツカウンシルという沖縄県文化振興会の取り組みで助成金の活用方法を

学んだこともあって、日本芸術文化振興会の助成金にも沖縄からチャレンジさせていただこうと。2015年度から3年連続で採択していただいて、2018年度も受けられることになったのは本当にありがたいですね。

—— 申請の際にご苦労はありましたか？

**高江洲** はじめは書類の書き方、費用計上の仕方等等、わからないことだらけで。基金部の方に質問すると丁寧に教えてくださるので、それで何とかという感じでした。

**根間** 変更が出るたびに、基金の担当の方に相談して指導していただきました。「未定」要素はないに越したことはないですが、ホールの改修工事があって会場決定が遅れたり、気を揉むことは多かったですね。沖縄は今ホール不足なので、限られた会場に予約が集中してしまうんです。「計画がどの程度まで確実に進められているのか見えるように」、という指導もいただくので、

本当は早くに会場が決まっていると助かるんですが。

**高江洲** でも、そうやって2年、3年と助成をいただいたことで、行政や企業に活動を説明する際や、会場予約、出演者との交渉時に強みになっていると思います。公的な助成を受けている団体ということで信用度が増しますから。助成を受けるに値する演奏をすることが第一ですが、組織体系の強化にも繋がっています。

**根間** 沖縄アーツカウンシルの支援で、組織づくりに対しての助成をいただいて、ここ数年、団員みんなで研修会に参加してみっちり学んでいます。

**高江洲** 演奏家が一番苦手な座学を(笑)。楽器の運搬から広報まで全て団員でやっていますが、いつまでも演奏者が事務局も兼ねる形では事業も広がらないので、本腰を入れて組織づくりに取り組んでいるところです。

## 助成期間中

### ▶プロの演奏に触れる機会をつくる

—— 実際に助成金を受けたことで可能になったことや、成果を教えてください。

**高江洲** 2回の演奏会とも新曲作品を委嘱できたことは大きいですね。沖縄出身の方や沖縄に興味のある作曲家さんと一緒に作品づくりをすることは、琉球交響楽団としてのアイデンティティを確立する上でも不可欠ですから。沖縄では身近な伝統楽器である三線とのコラボレーションで、「オーケストラを初めて聴きました」という伝統音楽好きの方たちも来てくださって、沖縄の人たちの心に響く演奏会にできたと思います。

**根間** 集客面では、助成金でチェリストの宮田大さんに来ていただけたことは大きかったです。石垣島、宮古島や県外から多くのお客様がいらして質の高い音楽を提供できましたし、楽団員も刺激を受けてモチベーションが上がりました。私たちが沖縄を出て演奏する、あるいは沖縄まで演奏家に来ていただく機会は少ないので、自分たちだけで活動していると考え方や音楽観が狭くなりがちなんです。一流の方と演奏することで吸収できるものは本当に大きいと思います。それと開演前のロビーコンサートでは、開催地のジュニアオーケストラや子供たちと楽団員と一緒に演奏するのも恒例です。

**高江洲** 子供たちにプロと演奏する喜びを味わってもらえたら。「こういうオケに入りたい」と思える機会を提供することも私たちの使命だと思います。(音楽監督の)大友直人さんがリハーサルに顔を出すとオーが違おうようで、子供たちが「ハッ!」とするんですよ(笑)。演奏した子供たちを演奏会に招待して、プロの演奏に触れてもらう。こうした様々な活動が、県民の文化生活の向上につながる社会的意義があると信じています。

## 今後の展望

### ▶音楽文化の種蒔き

—— 「0歳児からのコンサート」シリーズも好評と伺いました。赤ちゃんはどんな反応ですか？

**高江洲** 赤ちゃんは意外とすやすや寝ています(笑)。

**根間** むしろお母さんたちが喜んでくださいますね。平日昼間の開催ですが、最近はお父さんも加わって。

**高江洲** 最初は「赤ちゃんが泣かないかな」と緊張していたお母さんも、ゆっくり音楽を楽しんだ帰りはニコニコ顔に。「5年ぶりにこういう場に来た」という方もいました。ロビーに設けたおむつ替えスペースでお父さんが赤ちゃんの面倒を見て、お母さんが中で聴いているとか、微笑ましいですよ。リピーターになると今度はおじいちゃん、おばあちゃんまで来て下さいます。

**根間** 「次はお友達も連れてきます」と。3年前から始めて、今ではおかげ様で人気公演になりました。

**高江洲** 「子供との会話が増えた」という声も多くて、家族のコミュニケーションにも役立っているのかなと。赤ちゃんだった子が数年経って実際に楽器を始めてくれたことも感動的でした。演奏会に来てもらうだけではなく、色んな輪が広がっていると実感しています。

—— 今後はどんな活動を展開していきたいですか。

**高江洲** 沖縄に関わる曲は今後も創り続けて、大事な財産として残していきたいです。助成金も活用させていただきながら、次世代の沖縄の子供たちに繋ぐ手助けとなるような活動を続けていきたいですね。

**根間** やっと沖縄でもプロのオーケストラとして認知されるようになりましたが、音楽の仕事で生計を立てるのはまだまだ難しい環境です。でも「沖縄のために」という思いはみんな一つ。学校での芸術鑑賞体験授業や地区単位の鑑賞会のように観客の裾野を広げる努力も続けつつ、沖縄にクラシック音楽文化を根付かせていきたいです。



▲第32回定期演奏会 指揮：大友直人



▲第33回定期演奏会 指揮：大友直人



# 1 サントリー芸術財団サマーフェスティバル 2017

公益財団法人 サントリー芸術財団

助成金額 6,199千円

## 活動概要

1987年より開催されているサマーフェスティバルは、今では同時代の音楽作品を紹介する音楽祭として、毎年新たな切り口で作曲の委嘱や演奏会を行っているほか、日本初演あるいは再演が希少な作品にもスポットを当て、他では出会えない名作の鑑賞の場として注目を集めてきた。また、芥川作曲賞選考演奏会では、将来の日本クラシック界の担い手となる若い作曲家に作品の演奏機会だけでなく、音楽家との交流機会も提供。次世代の育成や音楽界の活性化に貢献している。

2017年には、9月2日～11日、サントリーホールの大ホール及びブルーローズ（小ホール）にて「サントリー芸術財団サマーフェスティバル2017」を開催した。



▲サントリー芸術財団サマーフェスティバル2017

## 助成を受けて

紹介される機会が極めて限られ、一般的には難解だとも思われている現代音楽に興味をもつていただくのはとても大変です。そこで助成金を利用させていただき、なぜその作品を取り上げるのかを説明したストーリー仕立ての漫画のほか、作曲家の特徴や作曲家同士の関係を表した図解、作品の解説・関連動画などを特設ウェブサイトに掲載し、「入口」のハードルを下げる工夫をしました。また、ツイッターなどでの情報発信にも努めました。

これらの取り組みによって、一部公演が完売するなど多くの方に来場いただきました。また「ザ・プロデューサー・シリーズ 片山杜秀がひらく」と銘打った4企画で、これまで演奏機会に恵まれなかった戦前～戦後の邦人作品を集めたことは、日本音楽史の再発見、再評価に繋がったと自負しています。同企画の大澤壽人「交響曲第1番」「コントラバス協奏曲」、ゲオルク・フリードリヒ・ハース「ヴァイオリン協奏曲 第2番」などは世界初演。観客の皆さんに未体験の音楽世界を発見、体験できる貴重な機会を提供することができました。

音楽的には大きな意義があっても、作曲委嘱を行ったり、広く知られていない作品を初演・再演するのは経済的に極めて難しいのが現状です。しかし、今回助成金を受けたことで、インパクトあるプログラムを実現しながら、大ホールS席4000円という価格設定や一部公演での青少年向け無料招待も叶いました。会場には若い作曲家や演奏家、指揮者、そしてそれらを目指している学生たちが集まり、フェスティバルは次代の音楽界を担う人材にとって教育的な役割も担っており、公益性の高い音楽祭になったと考えています。

今後も現代音楽の親しみにくいイメージを払拭し、音楽ファンや専門家、専門家を目指す若者たちにフェスティバルの面白さを知っていただけるよう、活動していきたいと思っております。そのためにもこの有意義な助成制度を今後もぜひ活用させていただきたいです。



▲サントリー芸術財団サマーフェスティバル2017

## 公益財団法人 サントリー芸術財団

〒107-6022 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 22階

Tel: 03-3582-1355 URL: <https://www.suntory.co.jp/sfa>

# 2 第117回・118回・119回定期演奏会

公益社団法人 大阪市音楽団

助成金額 2,341千円

## 活動概要

オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ（大阪市音楽団）は1923年の創立以来、「吹奏楽文化の普及発展と青少年の育成」を目標に掲げ活動を行っている大阪市の楽団。吹奏楽の可能性を広げるべく、定期演奏会では新しい楽曲や芸術性の高い楽曲を、第一線で活躍する指揮者、あるいは作曲者本人の指揮で演奏しており、高い評価を受けている。

2017年度には、第117回定期演奏会（J. バーンズ指揮）：「アルヴァマー序曲」「交響曲第8番」「祈りとトッカータ」「パガニーニの主題による幻想変奏曲」「マラゲニア」（すべてJ. バーンズ作曲）、第118回定期演奏会（西村友指揮）：華麗なる舞曲（C.T. スミス作曲）、「ダンス・ムーブメンツ」（P. スパーク作曲）、「交響的舞曲（新アレンジ）」（S. ラフマニノフ作曲）、第119回定期演奏会（秋山和慶指揮）：「アメリカン・サリュート」（M. グールド作曲）、「ファースト・エッセイ」（S. ハーパー作曲）、「ニュー・イングランド三部作」（W. シューマン作曲）、「シンフォニエッタ」（L. ヤナーチェク作曲）を行った。



▲定期演奏会



▲定期演奏会

## 助成を受けて

2014年に民営化し自主経営となった大阪市音楽団は、現在大きなスポンサーを持っておらず、助成金によってチケット価格を比較的安価に抑えることができます。これにより音楽愛好者だけでなく、多くの市民や学生など近畿圏を中心に幅広い層に対しても高質な音楽を提供するという、公益性の高い演奏会が実現できました。

第117回定期演奏会は、指揮に現代吹奏楽の大家として知られるジェームズ・バーンズを迎え、「交響曲第8番」など同氏の楽曲を存分に楽しんでもいただけるプログラムを企画しました。当楽団としては初となる京都市での開催に不安がありましたが、平日夜にもかかわらず1,600名近い来場者があり翌年からの京都での定期演奏会化も決定しました。第118回定期演奏会は、当楽団の正指揮者に就任した新進気鋭・西村友が自らアレンジしたラフマニノフの「交響的舞曲」を中心に、ダンスミュージックにもスポットを当ててプログラミング。また第119回定期演奏会では、当楽団芸術顧問であり2014年度の文化功労者にも選ばれた秋山和慶が、アメリカで交流のあった作曲家たちの作品をピックアップ。当時の思い出や楽曲への思いを込めた意欲的な演奏会となりました。いずれも終演後に実施したアンケートで高い評価を受けています。

我が国の吹奏楽愛好者は100万人を超えるとも言われており、多くの人が演奏活動をしています。世界でも珍しい吹奏楽大国の一楽団として、市民活動の範囲ではなかなか難しい大編成の吹奏楽曲や、普段は演奏される機会の少ない名曲をもっと多く届けられるよう、これからも助成金を活用させていただきながら、我が国の音楽文化の発展に寄与していきたいと思っております。

## 公益社団法人 大阪市音楽団

〒559-0022 大阪市住之江区緑木 1-4-138

Tel: 06-6684-2130 URL: <http://shion.jp>



# 3 踊る戯曲Ⅳ 『BALLO ～ロミオとジュリエット～』

CHAIROIPLIN

助成金額 970千円

## 活動概要

CHAIROIPLIN (チャイロイプリン) はスズキ拓朗を中心に2007年に結成されたダンスカンパニー。大人から子供まですべての人が楽しめるコンテンポラリーダンスを目指し、「踊る戯曲」「踊るマンガ」「踊る小説」「踊る落語」シリーズ等、新たな舞台芸術の可能性を強く打ち出す公演を行っている。

「踊る戯曲Ⅳ『BALLO ～ロミオとジュリエット～』」(スズキ拓朗振付・構成・演出)はW.シェイクスピアの名作を題材にした意欲作で、2017年12月2日・3日の2日間、東京グローブ座にて計4回上演。



▲踊る戯曲Ⅳ『BALLO～ロミオとジュリエット～』

## 助成を受けて

観客数が減少を続けるコンテンポラリーダンス界において、多くの老若男女に楽しんでもらえる普遍性のある作品を上演する。それがCHAIROIPLINの活動目標です。地方公演や海外公演も視野に入れ、コンテンポラリーダンスの社会的な普及に貢献したいとも考えています。

「踊る戯曲Ⅳ『BALLO ～ロミオとジュリエット～』」は、世界中で親しまれているシェイクスピア作『ロミオとジュリエット』を題材にした「踊る戯曲」シリーズ第4弾で、ダンスを中心に歌や演奏、台詞、オノマトペ、映像などで物語を紡ぎます。本公演ではシェイクスピア作品普及のために建てられた東京グローブ座で『ロミオ～』をコンテンポラリーダンス公演として上演、満員にすることを目標に設定。これまで劇場と縁遠かった方へのアプローチこそ公益性の一つと捉え、入場料を2017年にちなんだ破格の2,017円にしました。コンテンポラリーダンスへの興味を高めてもらうため、ダンサーだけでなく、片桐はいりさんから俳優陣をキャスティング。今までにない予算規模や出演者での公演となり、助成金は大きな力となりました。



▲踊る戯曲Ⅳ『BALLO～ロミオとジュリエット～』

上記の取り組みが功を奏し、劇場には多くの方々に足を運んでもらうことができました。追加公演も開催し、全4公演で2,000人という過去最高集客数を記録。新聞、雑誌やSNS等で多くの批評が得られたことも過去にはなかった大きな成果です。また、グローブ座というメジャーな劇場での公演は、カンパニーの認知度を大きく高めただけでなく、演者、美術、演出、衣装などのテクニカルな部分にも飛躍を与えたと感じています。

今までの反響を得た分、さらなるクオリティーの向上や集客促進など、いかに期待に応え続けられるかが課題です。公演規模が大きくなれば、人員や創作場所の確保等の環境整備にも力を入れなければなりません。今後も助成金を活用しながら、好評だった本公演の再演を含めた「踊るシェイクスピア」シリーズの充実を図る等、努力を重ねていきたいと思っております。

今までの反響を得た分、さらなるクオリティーの向上や集客促進など、いかに期待に応え続けられるかが課題です。公演規模が大きくなれば、人員や創作場所の確保等の環境整備にも力を入れなければなりません。今後も助成金を活用しながら、好評だった本公演の再演を含めた「踊るシェイクスピア」シリーズの充実を図る等、努力を重ねていきたいと思っております。

## CHAIROIPLIN

〒152-0032 東京都目黒区平町1-22-18 喜多川マンション 201

Tel: 080-3152-1182 URL: <http://chairoiplin.net>



# 4 劇団企画ミュージカル 『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

株式会社 オールスタッフ

助成金額 1,951 千円

## 活動概要

1962年、作曲家の故・いずみたくが音楽、舞台制作のスタッフ集団として発足させたオールスタッフ。佐良直美、由紀さおり、ピンキーとキラーズなど多くの歌手を養成、輩出し、1977年にミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ（旧ミュージカル劇団フォーリーズ）を創立。以後、日本のオリジナルミュージカルの制作に専念し、小劇場「アトリエフォンテーヌ」を拠点にした実験的な公演や若手育成に力を注いできた（2012年閉館）。また、子供向けミュージカルや市民ミュージカルなど幅広い層に向けた作品も全国で好評を得ている。

ミュージカル『ナミヤ雑貨店の奇蹟』は、劇団員による企画公演5作目として、2017年5月17日～21日、東京都中野区のザ・ポケットにて計8回上演。



▲『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 撮影：日高仁



▲『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 撮影：日高仁

## 助成を受けて

ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズは、日本のオリジナルミュージカルを上演することを劇団のポリシーにしていますが、美術、照明、音響、また、会場使用料や広報といった必要経費を俳優の知名度に頼らずチケット代のみで賄うのは困難なのが実情です。本公演は舞台芸術の普及活動促進を目的とした振興会の趣旨に添うのではと考え助成を申請しました。

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』は劇団の俳優陣が自分たちの未来をかけて企画した作品です。20～30代の若い世代をターゲットにした作品創りを目指して、東野圭吾の大ベストセラー小説を原作に選びました。物語は子供たちのどんな相談にも手紙で応える店主が営んでいたかつての雑貨店に、盗みを働いた3人の若者が隠れたところから始まります。30数年の時空を超えた奇蹟の手紙のやりとりをピアノとチェロの生演奏を交えて描くテーマは「再生」。「明日を信じてみよう」と思えるミステリアスファンタジーに観客アンケートでの評価は高く、初日からSNSの反響もあって客席は連日満員の盛況でした。

スケジュール調整は難しかったものの、本公演に劇団の8割が関わり、演出の河本章宏や劇団の将来を担うメンバーが中心となって活躍できたことは劇団の知名度や実力のベースアップに繋がりました。また、原作のファンで来場された方にも舞台の魅力が伝えられたと思います。私たちは演劇に興味がある方やこれまでそうでなかった方も含め、様々な価値観が同じ空間に混在することで新たな発見や価値観が見出せる点に演劇の魅力を感じています。その結果が人間を豊かにする公益性にも繋がっていくと思います。これからも助成金をきちんと活用し、舞台芸術を通じて人間の在り方や生き方を問う作品を幅広い層に発信していきたいです。

## 株式会社 オールスタッフ

〒111-0051 東京都台東区蔵前2-4-5 K-FRONT ビル 8F  
Tel: 03-5823-1056 URL: <http://www.allstaff.co.jp>

# 5 巡回学校公演

株式会社 すわらじ劇園

助成金額 2,011千円

## 活動概要

すわらじ劇園は1931年に京都で設立。その先駆けは明治時代までさかのぼり、胎動期の大正時代には、歌舞伎俳優・四代目市川新升（井上竹水）や演劇人・倉橋仙太郎らが参加して倉田百三作品を上演していた。

同劇団の発足当時は一般劇が主だったが、50年代からは児童劇や青少年劇にも力を入れている。人間として大切な道徳的テーマを盛り込んだ作品を、大きな会館にも対応する舞台セットや衣装、照明、音響を用いて上演。学校の規模や予算の大小に関わらず、多くの子供たちに本物の演劇を鑑賞してもらおうべく全国各地の学校を回り続けている。

2017年には、4月から12月まで、近畿、中部、四国、関東の小中学校で計32公演を実施した。



▲巡回学校公演

## 助成を受けて

これまで各学校に公演のお願いをする際、小規模校では予算の少なさから生徒にお芝居を見せられないという返答をいただいていた。当劇団もできる限りの努力を重ねてきましたが、赤字公演や利益の出ない公演も多く、また、お芝居以外でも、日々の荷物の搬入から、大道具や小道具、照明、音響、衣装の準備、片付けまでを劇団員でこなさなければならず、大きな負担がありました。助成によってそうした問題が解決されればと思い、申請させていただきました。

上演作品は、心優しい人間だけが素敵な音色を奏でられるバイオリンを手にした少年を描いた『ふしぎなバイオリン』、野獣の姿に変えられた王子が愛される事によって元の姿に戻る『美女と野獣』、事故で障害が残ったバスケットボール少年の成長物語『STAND UP』。私たちは演劇が子供たちの道徳教育の一環となると考え、作品ごとに「差別はしない」「嘘はいけない」「皆と仲良く」「人に優しく」などのテーマを持たせています。

今回の助成を受けたことで、当劇団で課題であった劇団員の負担を軽減することができました。また、劇団の財政面で少し余裕が出たので、先に挙げたように予算面から今までお芝居を観ることを諦めていた学校でも公演が実現し、当初30公演の予定が最終的には32公演を行うことができました。助成によって学校の規模や地域による格差を解消できたことは、公益性に繋がっていると感じます。子供からは「すごく面白かった」「人間を見た目で判断してはいけないと思った」「自分も優しい人間になりたい」といった感想文を、学校側からも「子供たちは道徳的なテーマを楽しく学んでいた」という声をいただき、内容面でも意義ある公演を行えたと思います。

子供たちに本物のお芝居を見せられないと悩んでいらっしゃる学校はまだたくさんあるはず。これからもどんな子供たちにも演劇を楽しんでもらえる公演を続けられるよう、まずはDMの発送地域を増やすなどの地道な活動を増やしていきたいと思っています。



▲巡回学校公演

## 株式会社 すわらじ劇園

〒607-8025 京都府京都市山科区四ノ宮柳山町7-9

Tel: 075-593-9537 URL: <https://www.swa-raj.com>



# 6 新作能『面影』

公益財団法人 金剛能楽堂財団

助成金額 711千円

## 活動概要

金剛家に伝わる能楽堂・能面・能装束の保存、活用、公開等の事業を行うことで能楽の振興と普及を図り、京都府における伝統文化の継承振興と、能楽を通して芸術文化の発展に寄与することを目的として、1995年に設立。現在は金剛流二十六世宗家・金剛永謹（重要無形文化財総合指定）理事長のもと、京都御所西向かいに移築した新金剛能楽堂にて活動を続ける。2011年京都府より公益財団法人への移行認定を受けた。

2017年10月29日、京都・パリ友情盟約締結60周年記念プレ事業およびアンスティチュ・フランセ関西（旧・関西日仏学館）90周年記念として、金剛能楽堂にてポール・クローデル原作の舞踊詩劇『女と影』を新作能『面影』として上演した。



▲新作能『面影』

## 助成を受けて

数年前、アンスティチュ・フランセ関西の創立90周年という記念の年に、設立提唱者ポール・クローデルの戯曲をぜひ新作能にというお話をいただき、準備を進めました。度重なる会議や稽古、交通費、解説・通訳料など新作能の制作には多大な経費がかかるため、助成金は新たな芸術作品を制作するにあたり大きな助けとなり、大変有り難く感じています。

詞章の監修は冷泉貴実子氏に依頼し、また通常の地謡では行わない高音・低音の輪唱によって“影”を表現。会場は蠟燭の灯りを用いて幻想的な雰囲気 연출しました。原作は一見怪談話のようですが、怪談にはせず、武士の先妻に対する永遠の思慕の情を主題に据え、妄執、葛藤、人間の愛の難しさをいかに表現するかという本質に迫りました。登場人物の内面世界を抽象的に描き出す能的な表現を追求したことで、ローラン・ピック駐日フランス大使をはじめ満席の観客からは大変好評を博し、「素晴らしい」「涙が出るほど感動的」「ぜひフランスでも上演を」との声が数多く寄せられました。

クローデルが「私の能」と呼んだ作品を新作能として上演できたこと、またその作品を国籍・年齢を問わず幅広い方々にご覧いただけたことは、日仏両国の友好と文化交流の結実としての公益性も高く、意義ある活動であったと考えます。この作品が今後も上演されていくことで、互いの文化に対する興味を深め、友好の一助となることを期待しています。

能公演はチケット売上だけで全経費を賄うことは大変難しく、開催の度に赤字となり、自主公演の継続は困難を伴います。今後もできれば助成金を活用させていただき、高い芸術性を追求した作品の上演、復曲、新作にも取り組み、能楽の普及にも努めていきたいと思っております。



▲新作能『面影』

## 公益財団法人 金剛能楽堂財団

〒602-0912 京都府京都市上京区烏丸通中立売上ル龍前町590番地

Tel: 075-441-7222 URL: <http://www.kongou-net.com>

# 7 「YCC Temporary」

特定非営利活動法人 YCC (YCC ヨコハマ創造都市センター)

助成金額 870千円

## 活動概要

YCC ヨコハマ創造都市センター（以下YCC）は、1929年に第一銀行横浜支店として建てられ、地域のシンボルにもなっている歴史的建造物を活用した横浜市の芸術文化施設。

2017年4月～9月、YCCが企画するアートプログラム「YCC Temporary」では、国際的にも評価の高い大巻伸嗣氏、山川冬樹氏、鬼頭健吾氏による展覧会を3期に分けて開催。そのすべてが施設の特性に合わせた新作で、延べ27,549（有料会場来場者数3,685）名が鑑賞に訪れた。



▲ YCC Temporary 鬼頭健吾  
Photo:Shinya Kigure

## 助成を受けて

現代美術分野の創造活動を広く人々に知っていただきたく、作品制作費、広報活動費の予算拡大のために本助成金に応募しました。助成金により、3名のアーティストが横浜という地域に対する思考などを投影した新作を制作し、施設の特性を生かしたオリジナリティあふれる展示や発表をしたことで、地域の方々をはじめ広く一般の観客に現代美術の魅力を届けることができました。

人間の知覚に訴えかけるダイナミックなインスタレーションで知られる大巻伸嗣は、横浜の歴史を織り込んだ大型インスタレーション1点ほか3点の作品を展示（4月14日～6月4日）。横浜市出身の現代美術家でもある山川冬樹は、「LIVE（生きる／ライヴ）」をテーマに身体・音響・光・映像などの要素を動員した70時間連続ライブを開催（7月7日～9日）。フラフープや布など日常的な既製品を用いた作品で知られる鬼頭健吾は、大型インスタレーションなど4点を発表（8月4日～9月17日）。これらYCCでしか見ることのできない唯一無二の新作に来場者からは高い評価をいただき、関連イベントとして開催したアーティストトークも大きな反響が得られました。



▲ YCC Temporary 大巻伸嗣  
Photo:Ken Kato

助成金を活用したことでDMのみならず展覧会の入場者に配布する資料も制作することができ、作品の創作意図などの理解をより深めていただくための広報活動が十分に行えたのも成功に繋がった要因です。特設ウェブサイトやSNSでも情報を積極的に発信。その結果、地元媒体を中心に新聞やウェブメディアでのインタビュー、レビュー掲載は合計166件に達し、その意味でも横浜市の創造活動の普及拠点として、公益性のある役割が果たせたのではないかと感じています。

「見る」だけでなく、「つくる」「参加する」をテーマに運営しているYCCでは、人々の創造性の触発や地域の創造活動を推進することが重要な使命です。今後も助成金を活用させていただき、現代美術分野で活躍するアーティストの作品を紹介するプログラムを積極的に展開し、その普及に貢献していきたいと考えています。

## 特定非営利活動法人 YCC (YCC ヨコハマ創造都市センター)

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1

Tel: 045-307-5305 URL: <http://yokohamacc.org>



# 8 ガムランが織る ～博多織サウンド・プロジェクト

藤枝 守

助成金額 458千円

## 活動概要

インドネシアの伝統音楽ガムラン。音楽家の藤枝守と西ジャワ様式の「ガムラン・ドゥグン」を演奏しているパラグナ・グループが、これまでとは全く異なる切り口を探った「ガムランが織る」を2018年2月26日、東京・杉並公会堂にて上演した。演目は『『植物文様ガムラン曲集』からno1, no2』、「植物文様第26集『茶文様』からpattern C “Dream”』、「ガムランによる『歌づけ般若心経』」、「ガムランをともなうハーブ・コンチェルト」、「ガムランが織る～博多織の機音による」。



▲ガムランによる『歌づけ般若心経』

## 助成を受けて

作曲家自身が公演を企画・自作を発表するには、演奏料、会場費、制作費、宣伝費など多大な経費が発生します。入場料の収益だけでは賅うことが難しく、今回助成金を申請させていただきましたが、経済的側面のみならず、応募に際して説得力ある企画内容を練り上げる契機ともなりました。

本公演では、伝統音楽のレベルを超えたガムランの多彩な可能性を社会に問う試みができたと考えています。「ガムランが織る～博多織の機音による」は、博多織の織機の振動を収録した音響素材を元に、織り師の「震え」のパターンをガムラン演奏にリアルタイムに転写するという画期的な手法を用いた作品です。そこに舞踊を組み合わせ、より多面的な織りの世界を展開しました。「ガムランをともなうハーブ・コンチェルト」はガムランと西欧の古楽器ゴシップ・ハーブによる独創的な3楽章のコンチェルト。そのほかガムランを伴奏に般若心経をインドネシアの歌唱法で歌う「歌づけ般若心経」など、助成金によって充実したプログラムとなりました。

このような実験的な試みでは、その意義を伝える広報活動も大切です。今回はチラシやSNSなどにも力を入れ、会場の定員に近い約200名の集客に成功し、全国紙にも批評が掲載されました。また、アンケートから現代音楽や民族音楽、古楽など、さまざまなジャンルを志向する方々が来場されたことが分かったのも大きな成果でした。こうした聴衆が混在化することで、互いに新しい音楽的な価値を見出す場となり、それがひいては公益性に繋がるものと感じています。

今回ガムランをテーマに取り上げた背景には、演奏を担当したガムラン・グループとの長い協力・信頼関係がありました。作曲家としては単独の創作活動だけではなく、今後も演奏者や他のジャンルの表現者との強い結びつきを具現化するような、多様な活動を展開していきたいと考えています。新たな可能性を問うていくためにも、今後も、積極的に助成金を活用したいと思います。

## 藤枝 守

〒188-0001 東京都西東京市谷戸町 2-1-24-231

e-mail: fujieda@bg.mbn.or.jp

facebook: www.facebook.com/mamoru.fujieda



▲ガムランをともなうハーブ・コンチェルト

# 9 第26回 しまね映画祭

しまね映画祭実行委員会

助成金額 1,703千円

## 活動概要

しまね映画祭は1992年以来、島根県全域を会場として毎年秋に3か月にわたる「日本一開催期間の長い映画祭」という独自のスタイルで実施。島根に暮らしながら質の高い作品に触れる機会を提供するため、公共文化施設や地域の活動団体と協働し、県内各地に映画を届け続けている。四半世紀に及ぶ開催実績から県内での認知度も高く、幅広い年齢層から支持を集めている。

26回目は2017年6月11日～11月23日まで約6か月間にわたり、10市町13会場にて開催。15作品・計67回の映画上映、シネマ&トークなど映画関連イベントも5回実施し、総入場者数7,188人。併せて実施した映画製作ワークショップ「しまね映画塾」には150人が参加した。



▲映画製作ワークショップ「しまね映画塾」撮影風景

## 助成を受けて

しまね映画祭は、「映画館のない町に映画を届けたい」「映画という素晴らしい芸術を大きなスクリーンで鑑賞し、大勢のひとと感動を共有する文化を守りたい」という思いからスタートしました。芸術性と娯楽性に富んだ総合芸術である映画の鑑賞環境は文化的生活のライフラインと位置付け、「地域」と「映画」に対する公益性を意識した上映活動を行っています。全国最下位レベルの映画館数しかない島根県において、当映画祭によりスクリーンでの鑑賞機会を県内各地に提供していること自体が、公益性の一つと考えます。少子高齢化や人口減少等の課題を抱える本県では、映画祭の開催に必要な入場料収入等が十分、確保できないため各種文化芸術鑑賞を単独で開催するのは収支構造として困難な状況にあります。助成を受けることによって、映画祭に必要な会場借料や作品借上料を確保できるようになり、単独では映画上映の難しい地域を含む県内各地での上映活動を継続していくことが可能になりました。このことは鑑賞環境の地域間格差の是正にもつながっています。

当映画祭は公立文化施設を主な会場とするため、上映環境や配給側の条件面で一般の映画館のようなプログラムが組めず、上映料の高騰傾向も相まって上映作品の幅が狭まりつつあります。そんな中、助成を受けたことで映画祭の規模を維持でき、数々の映画賞に輝いた話題作『この世界の片隅に』の今回11会場での上映が実現したことは、「巷で大きな話題を集める名作をスクリーンで観ることができない」という本県が抱えるジレンマを当映画祭の上映活動によって補え、映画文化振興の点において大きな意義があったと考えます。

今後は、公立文化施設での上映は継続しつつ、公民館や学校等を活用した地区単位の小規模な上映も増やし、県民に寄り添う上映活動を行っていきたいです。また、上映部門の観客高齢化に比して、2003年からスタートした「しまね映画塾」には毎年若年層を中心に多数の参加者を迎えており、時代に即した新たなプログラムの創出によって、若年層の集客や映画祭を支える人材の育成を目指し、助成金も活用しながら活動を盛り立てていきたいと思っています。



▲体育館での上映

## しまね映画祭実行委員会

〒690-0887 島根県松江市殿町158番地 島根県民会館内

Tel: 0852-22-5502 URL: <https://www.shimane-eigasai.com/>



# 10 第11回江東シネマフェスティバル 映画のまち深川—小津安二郎の生まれたところ—

公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団

助成金額 1,050千円

## 活動概要

江東区文化コミュニティ財団は、1982年に財団法人江東区地域振興会として設立（2010年に公益財団法人に移行認定）。コミュニティの振興を図り、文化振興事業を行うことで、地域社会の発展と豊かな区民生活の形成に寄与することを目的としている。

名匠・小津安二郎監督の生誕地である江東区深川から、小津監督と映画を愛する区民ボランティアのアイデアを取り入れた地域密着型の映画祭を開催しており、第11回は2017年12月16・17日に実施。小津監督作品『風の中の牝鷄』のほか、『四十七人の刺客』（市川崑監督）、『素晴らしき哉、人生！』（フランク・キャブラ監督）、『マエストロ！』（小林聖太郎監督）、『キートンのセブンチャンス』（バスター・キートン監督）、『もういちど』（板屋宏幸監督）を上映。トーク、コンサート、ワークショップ、展覧会など関連イベントも多彩に行った。



▲東京シティ・フィルオープニングコンサート



▲ロビーイベント

## 助成を受けて

当財団の事業が振興会の助成事業として採択されることは、国から認められた事業として区内外へ発信することができ、大きなメリットがあります。既存の事業をレベルアップさせ、地域に対して優れた映画上映活動が展開できるため、助成対象事業として採択されるように努めています。今回も助成をいただいたことで、上映機会の少なくなった35mmフィルム映写機による上映、活動弁士付き上映、特別出演者のトークやコンサートを実施し、日本映画の素晴らしさや映画文化への興味・関心を、より多くの東京都民に提供することができました。

また、視覚や聴覚など障害をお持ちの方にも気軽に足を運んでいただける環境づくりも必要です。今回は音声ガイド付き上映、音声ガイドボランティアによる「音声ガイド紹介ブース」の設置や実演により、バリアフリー上映への関心を広げ、音声ガイドの普及に繋げることができました。さらなる公益性を高めるためにも、手話弁士や日本語字幕付き上映のほか、外国人の方にも楽しんでいただけるよう外国語字幕付き上映の検討、世界的な映画監督・小津安二郎氏の業績を広く提供していくことが重要と考えています。

公共施設の立場から、民間と競合しないよう上映作品の選定には苦労がありますが、フェスティバルでは次世代育成プログラムとしてワークショップを開催するなど企画に工夫を凝らし、中間層のお客獲得に力を注いでいます。今後も助成金を活用しながら、未来の映画人の育成や古きよき日本映画文化の継承に取り組み、優れた日本映画を広く東京都民の皆さまに提供し続けていきたいと思っております。

公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団

〒135-0016 東京都江東区東陽 4-11-3

Tel: 03-3644-8119 URL: <http://www.kcf.or.jp>

# 11 小学校訪問アーティストによる ニューイヤー・ファミリーコンサート 2018

公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団

助成金額 1,050 千円

## 活動概要

三鷹市スポーツと文化財団では、生のクラシック音楽を子供たちに届けたいという趣旨に基づき、市内の全公立小学校への訪問演奏を実施。その集大成として毎年1月、音楽室で子供たちとの時間を過ごしたプロのアーティストが出演するファミリーコンサートを三鷹市芸術文化センターにて開催している。

コンサートではクラシックの小品から地元ゆかりのジブリ映画の音楽までを盛り込んだ多彩な選曲、イラストやナレーションを交えたメイン曲の演奏といった趣向を凝らしたプログラムで、子供たちがクラシック音楽に親しみを感じてもらえるよう尽力している。2017年には、7月～12月に三鷹市教育委員会の受託事業として市内公立小学校全15校への訪問演奏を行った。



▲小学校訪問アーティストによるニューイヤー・ファミリーコンサート 2018 © Minoru Kimoto

## 助成を受けて

市内公立小全校への訪問演奏を経て、今回のコンサートのメインであるムソルグスキー作曲の組曲『展覧会の絵』にちなみ、三鷹市立第一小学校5年生108名を対象にピアニストの中川賢一氏による音楽&美術ワークショップを開催。楽曲を聞いて描いた生徒たちの絵が、コンサート演奏中に舞台上のスクリーンに投影されるという演出に取り組みました。助成により子供たちの絵を映し出す大きなスクリーンのレンタルが可能になり、迫力ある映像制作をプロに委託できたため、アーティストの音楽と子供たちの絵画との相乗効果が格段に高まったと感じています。ロビーでは子供たちの絵250点を集めた原画展や出演者らによる弦楽器体験ワークショップなども実施。来場者のアンケートでも高く評価されました。本公演は普及事業として地元の子供たちと共に創り上げるというコンセプトで入場料も安価に設定しているため、可能な限り経費を削減する努力をした上で助成金をいただくことが必要不可欠です。



▲『展覧会の絵』原画展 © Minoru Kimoto

コンサートでは、0歳から入場可能な「赤ちゃんからのクラシック」(2018年1月20日/入場者数451人)と、前述のコラボレーション企画を盛り込んだ「小学生以上からのクラシック」(同21日/入場者数372人)に分けて開催し、子供たちが幼い頃から良質の音楽に触れられるよう工夫しています。安価でありながら本格的な音楽を大人と子供と一緒に楽しめる本公演の需要は高く、「赤ちゃん～」はチケット完売後も多くの問い合わせを受けました。

今後も公共ホールの特性を活かし、演奏家によるワークショップを受け入れてもらえるよう学校に働きかける、音楽と他ジャンルとのコラボレーションを模索するなど、地域住民のみなさんにクラシック音楽をより身近に感じていただけるプログラムを充実させていきたいと思っています。

公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-12-14

Tel: 0422-47-9100 URL: <http://mitaka-sportsandculture.or.jp>



# 12 特別展「乙訓郡誌の編纂とその時代」

向日市

助成金額 615千円

## 活動概要

大正から昭和初期にかけて日本各地で郡誌編纂事業が行われる中、当時の歴史・地理研究者によって原稿が執筆されながらも、諸般の事情から未刊に終わった乙訓（おとくに）郡誌。乙訓郡の中心地だった京都府向日（むこう）市（旧向日町）では、原稿のままで埋もれていた乙訓郡誌の稿本を調査、校訂し、冊子化を行った。

その調査成果を活用し、2017年11月18日～12月17日、向日市文化資料館にて特別展「乙訓群誌の編纂とその時代」を開催。これまであまり知られていなかった乙訓郡誌編纂の過程や時代背景を関連資料と共に広く紹介した。



▲特別展「乙訓郡誌の編纂とその時代」

## 助成を受けて

本展は乙訓郡誌の再評価に繋げるとともに、古代から近代に至る乙訓の歴史を振り返り、市民の郷土への理解と愛着を深める契機となることを目的に企画しました。旧乙訓郡内の寺社を中心にお借りした国指定重要文化財を含む貴重な文化財71点を展示し、1928年に開催された郡誌編纂記念展覧会の内容の大部分を再現。約1カ月の展示期間で1,300名以上の来場者がありました。また関連事業として、乙訓郡誌稿を職員の解説付きで読む「乙訓むこうまち歴史講座」（全10回、展示期間中に2回開催）、職員の案内で乙訓郡誌に記された場所を訪ねて歩く「乙訓むこうまち歴史散歩」（全5回、展示期間中に1回開催）を開催したところ、市外からも多くの参加があり、今後の来訪も期待できる結果となりました。

現在、乙訓地域といえば向日市・長岡京市・大山崎町の二市一町と受け止められていますが、かつては戦後京都市に編入された南区・伏見区・西京区を含めた桂川右岸一帯が乙訓郡として一つのまとまりをなしていました。この特別展で、向日市だけでなく乙訓地域全体の歴史と文化を広く発信し、その繋がりを多くの方に実感していただけたことは、公益性の点からも大きな意義があったと考えます。

今回、助成を受けたことにより多数の貴重な文化財を展示することができ、質・量ともに充実した特別展を開催することができました。展示品には大型の重量物や古い木像も含まれていたため、専門業者に借用先からの集荷と返却を委託できたことは非常に大きなメリットでした。また、図版と解説文を豊富に収録したカラー印刷の図録を作成することもでき、特別展への理解をより深められたと思います。向日市文化資料館は小規模館で、自主財源のみで大規模な展示会を開催することは困難です。今後もぜひ助成金を活用しながら、魅力的なテーマの展示を企画し、地域に貢献していきたいと思っています。



▲特別展「乙訓郡誌の編纂とその時代」

向日市

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1 向日市文化資料館

Tel: 075-931-1182 URL: <http://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/bunka/>

# 13 歴史的景観都市協議会紹介リーフレット作成及び歴史的景観都市普及啓発活動

歴史的景観都市協議会

助成金額 400千円

## 活動概要

1973年の発足以降、歴史的景観の保全にまつわる行政の現状と課題についての情報交換等を行うと共に、国や関係機関への要望活動を行っている歴史的景観都市協議会。1975年には伝統的建造物群保存地区制度創設にも寄与。現在では歴史的景観を持つ都市や文化庁、国土交通省など国の実務担当者が一堂に会して意見交換や研修を行う唯一の場となっている。

2017年は、11月1日・2日、山形県鶴岡市の東北公益文科大学鶴岡キャンパス大学院ホールにて「第45回歴史的景観都市協議会総会 鶴岡大会」を開催。風趣ある歴史的、伝統的な市街地景観の保全を図っている都市の最新の取り組みをまとめたリーフレットを作成・配布し、情報発信に努めた。



▲総会



▲現地視察

## 助成を受けて

当協議会に加盟しているのは現在50市町村。人口100万人以上の政令市から1万人以下の町村まで幅広く、各自治体の歴史的町づくりは、その状況も抱える課題も異なります。そのためすべての加盟都市にとって有益な活動を毎年行うことは困難ですが、できる限り情報を共有し、意見交換することを心掛けています。

助成を受けた今回の総会では、会員都市向けリーフレット2,730部を作成し、歴史的景観保全の具体的な取り組み手法や事例を広く発信することに役立てました。総会では、早稲田大学大学院教授・佐藤滋氏による講演会のほか、同氏をコーディネーターに、東北公益文科大学大学院特任教授・高谷時彦氏、増田町観光ガイドの会会長・佐藤豊氏、前川國男の建物を大切にする会代表・葛西ひろみ氏、宮城大学事業構想学群教授・舟引敏明氏を交えたパネルディスカッションを実施。パネリストらが同行しての現地視察も実施しました。

総会の参加人数が毎回100名を超えるため、開催地や場所などの決定に苦労を要しますが、開催都市の取り組みを学ぶと共に普及啓発にも取り組むことができるほか、近隣市町村の担当者や地元住民の方々も対象にしたシンポジウムや現地視察は、加盟都市の企画立案スキル向上を図るだけでなく、歴史的景観保全の取組みの必要性を広く理解してもらうことにも繋がります。近年、歴史的な町並みを誇る地域でも空き家が目立つ場所が増え、これまでの景観行政では対応できない観光や福祉などの視点も問われるようになりました。多彩な市町村が集まりノウハウが蓄積されている当協議会の重要性は今後ますます高まるはず。助成金の後押しも受けながら、今後も協議会の公益性を高められるよう、市町村の課題やニーズに即した制度づくりに役立つ活動を行っていききたいと思います。

## 歴史的景観都市協議会

〒640-8571 京都市中京区寺町通御池上る 上本能寺前町 488 番地 京都市都市計画局都市景観部 景観政策課内  
 Tel: 075-222-3397



# 14 平成 29 年度小田原民俗芸能保存協会 後継者育成発表会

小田原民俗芸能保存協会

助成金額 200 千円

## 活動概要

小田原民俗芸能保存協会は、神奈川県小田原市内に残る民俗芸能の保存と普及、後継者の育成に努め、民俗芸能保存団体の連絡協調を図ることを目的として 1973 年に設立。毎年、加盟 8 団体（相模人形芝居下中座、根府川寺山神社鹿島踊保存会、小田原囃子多古保存会、曾我別所寿獅子舞保存会、小田原市山王原大漁木遣唄保存会、小田原ちようちん踊保存会、栢山田植歌保存会、小田原祭囃子連絡協議会）が一堂に会して行う後継者育成発表会は、経験の浅い後継者を中心に日頃の練習成果を発表する場となっている。2017 年は、12 月 9 日に、小田原市民会館大ホールで行われた。



▲根府川寺山神社鹿島踊保存会（福踊り）

## 助成を受けて

当保存協会に属する各団体は、日々地道に後継者育成に力を注いでいます。発表会はその成果を市民の皆さんに広く知っていただくための大きな催しです。毎日勉強などに追われている小中学生ら後継者にとっても、技術の研鑽に取り組むモチベーションとなっています。

今年の発表会は前年を上回る 472 名の観覧者が訪れました。アンケートでも「素晴らしかった」「懐かしい景色を思い出させてくれる」「郷土の民俗芸能を継承していく大切さを感じた」など嬉しい言葉をいただきました。また、休憩時間には、お楽しみプログラムとして寿獅子舞によるパフォーマンスを行い、観客と触れ合う時間を設けたことも好評を得ました。発表会を多くの方々に楽しんでいただけたことで、古くから伝わる小田原の民俗芸能への理解者を増やせたのではないかと思います。様々な民俗芸能に触れてもらうことで市民の郷土愛の醸成を図る、あるいは民俗芸能団体の横の繋がりを強めることで市民としての一体感を育むことができる——そうした点でもこの発表会の公益性は高いと感じています。

保存協会は各団体による拠出金で運営しているため、資金面の基盤が脆弱です。今回の助成金によってチラシやプログラムを充実させることができ、それが観覧者増加の要因にもなりました。後継者にとっては大勢の観客の前で演技を披露することは自信にも繋がり、大変良い経験となります。今後も助成金を活用し、例えばワークショップを同時開催するというように、観客が目と耳で楽しむ以外の趣向も凝らしながら、郷土に伝わる民俗芸能を守り、伝えていきたいと考えています。



▲曾我別所寿獅子舞保存会

## 小田原民俗芸能保存協会

〒 250-8555 神奈川県小田原市荻窪 300 番地 小田原市役所文化財課  
Tel: 0465-33-1717

# 15 第23回しまくとぅば語やびら大会

沖縄県文化協会

助成金額 216千円

## 活動概要

沖縄県文化協会が1995年の設立以来毎年開催している「しまくとぅば語やびら大会」。第1回大会は10市町村11名のみのお出場だったが、回を重ねるごとに認知度が高まり、しまくとぅば（島言葉）の普及・継承に取り組む市町村も増加したことで出場者数も増え、2017年9月16日、沖縄県宜野湾市・沖縄コンベンションセンターで開かれた第23回大会には、県内全域より21組23名が参加。しまくとぅば普及のシンボリックなイベントとして人気を集めている。



▲しまくとぅば語やびら大会

## 助成を受けて

地域ごとに表現が大きく異なる琉球諸語は、その歴史的価値において学術的にも高く評価されています。ユネスコは奄美語・国頭語・沖縄語・宮古語・八重山語・与那国語の6言語を消えつつある「危機言語」に分類。沖縄県は2006年に「しまくとぅば条例」を制定して地域の言葉に対する県民の意識も高まっていますが、実生活ではあまり使われなくなっているのが現状です。「しまくとぅば語やびら大会」は、ふるさとの言葉への関心をさらに高め、その価値を見出す機会を提供し、地域文化の継承・発展に寄与することを目的に毎年開催しています。

第23回大会では、21組23名が一生懸命練習してきたスピーチを披露。500名余りの来場者が各地域のしまくとぅばに熱心に耳を傾け、アトラクションでは全員でしまくとぅばによるラジオ体操を楽しみました。発表のステージを提供することで、子供の出場者はしまくとぅばを学んだ成果を発表するチャンスを、大人は伝えなかった思いを披露する場が得られます。また、大会では沖縄県内すべての文化協会に推薦を依頼し出場者を募っているため、県内全域のネイティブの言葉を1日で耳にできる貴重な機会にもなっています。



▲出場者全員でしまくとぅばラジオ体操

2012年度より沖縄県からの組織運営の負担金がなくなった当協会では、自主事業はおろか組織の運営にも苦慮しており、必要な経費は不足がちです。助成によって、本活動を広く理解にしてもらうための大会の広報物作成や、言葉が分からない方への字幕作成や動画での記録が実現できました。動画は宮古及び八重山のケーブルテレビで放送され、当日来場できなかった層への、しまくとぅばの普及に繋がったと思います。しまくとぅば普及のシンボルであり、また子供が入場できる無料イベントとしても認知されている同大会は公益性も高く、地域の歴史文化の発展のために果たしている役割は大きいと考えます。今後も助成金の力を借りながらぜひ大会を継続していきたいと思っています。

## 沖縄県文化協会

〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 文化振興課内

Tel: 098-867-4746



# 16 装演修理に必要な道具・原材料の製作技術に関する 伝承者養成のための記録映像の製作(表装建具製作)

一般社団法人 伝統技術伝承者協会

助成金額 1,323千円

## 活動概要

伝統技術伝承者協会は、2010年、国宝・重要文化財(美術工芸品)の修理に不可欠な「伝統技術を用いて製作される道具・材料類」について、伝統技術・材料生産体制の維持・継承と拡充を図ることを目的に設立。材料の確保や後継者育成支援を中心とした活動のほか、伝承者養成のための教材とするとともに、広く装演(そうこう: 書画の表具)修理技術に携わる関係者の意識向上を図るため、技術の映像記録にも取り組んでいる。

2017年度の活動では、表装建具の製作工程について、木材の切り出しから吟味、切削加工、製作・仕上げ、修理文化財の完成に至る詳細な映像化を実施した。



▲組子下地製作 材料の加工

## 助成を受けて

当会は活動資金を国庫補助金に依拠し、会費収入だけでは人材育成に必要な材料費の捻出などが困難だと感じていました。そんな折に振興会による助成対象となることをご教示いただき、万一技術が途絶えた時でも復元が可能となるよう、助成金を活用して技術の映像記録に取り組んでいます。

映像製作に当たっては個々の手仕事かどのように文化財の保存修理に生かされているかを効果的に視聴者に伝えるため、作り手と使い手、映像製作者との綿密な打ち合わせが必要でした。また、材料調達の源流の取材にもこだわっていること、基本的に撮影が許可されない文化財修理現場での収録も必要なことから、撮影に至るまでの調整が大変な場合もありました。そのような苦労も経て、組子下地の製作工程について、加工から修理文化財の完成までをくまなく映像化できました。助成を受けたことで、より鮮明に撮影することができる機材を使用でき、より丁寧な製造工程を記録することが可能になり、一般の方々にも分かりやすい内容で作成できたと思います。

完成した映像は当会や関係団体での研修等で上映し、専門家や一般来場者に対する啓発活動に活用したほか、関係行政機関や文化財学科を持つ大学等に無償で配布し、教育研究活動に活用していただいています。特に、文化財修理現場における新人教育や、行政担当者へのご説明に際し、説得力ある映像として大変に好評です。国民共通の宝である文化財を守り、伝えていくために、映像を利用して効果的に普及・啓発活動を行うことは、高い公益性に繋がると考えます。

文化財修理をとりまく環境が年々厳しさを増す中、緊急に映像化しなければ将来が危ぶまれる技術がまだまだたくさん存在します。今後も助成金を活用させていただきながら、より時代に則した形での映像公開(Web配信など)にも取り組みたいです。また、過去複数年、振興会の助成をいただいて実施した撮影済み映像のシリーズ化、再構成も行えればと思います。



▲組子下地製作 組み上げ

## 一般社団法人 伝統技術伝承者協会

〒604-8173 京都府京都市中京区姉小路通室町東入柿本町 405 株式会社光影堂 気付  
Tel: 075-255-7510 URL: <http://www.dendenkyo.or.jp>

# 17 定期演奏会

公益財団法人 九州交響楽団

助成金額 25,117千円

## 活動概要

1953年にセミプロとして発足した九州交響楽団は、1973年に専属楽団員を採用してプロ化。1975年に財団法人化、2013年に公益財団法人に移行。音楽監督に小泉和裕、桂冠指揮者に秋山和慶が就任し、2016年には名誉客演指揮者に小林研一郎が就任した。

定期演奏会は〈芸術型公演〉と位置付け、小泉音楽監督による指揮を中心に、九州唯一のプロ・オーケストラとして市民に芸術性の高いクラシック音楽を提供している。2017年度には、4月から2018年2月まで合計9公演を行い、R.シュトラウス「ツァラトゥストラはかく語りき」、ストラヴィンスキー「春の祭典」など大編成の作品や、オルフ「カルミナ・ブラーナ」は高い評価を得た。井上道義指揮によるラプソディ特集、李心草指揮による中国人作曲家・徐振民作品など、紹介される機会の少ない作品も多くの支持を集めた。



▲第362回定期演奏会



▲第357回定期演奏会

## 助成を受けて

定期演奏会では国際的なアーティストを招聘し、オーケストラの演奏レベルアップにも繋がる芸術性の高い作品や大編成の作品、九州ではあまり演奏されない作品を紹介するべく努めています。その費用（出演費、渡航費、エキストラ費、楽譜・楽器借用料等）を入場料や広告料収入だけで賄うことは難しく、助成を受けることで実現できます。その結果、県民市民のクラシック音楽や芸術文化への認識・関心を高め、ひいては九州におけるクラシック音楽の普及を図るといった公益性にも繋がると考えています。

2013年に小泉和裕音楽監督が就任以来、定期演奏会では初演となる作品を数多く取り上げるほか、「アジアに開かれたオーケストラ」としてアジアの優れた芸術家を福岡の聴衆に紹介してきました。また公演の聴きどころや作者のエピソードをわかりやすく解説する「目からウロコ!?!のクラシック講座」、開演前の「ロビーコンサート」、音楽主幹による「プログラムのミニ解説」で、一般的に難しく思われがちなクラシック音楽に親しみを持ってもらう工夫を行い、終演後には楽団員によるお客様のお見送りで、皆さんとの距離を縮めています。

これからも主催公演では、①九州の芸術文化の発展、②市民へのクラシック音楽の普及、③未来の音楽ファン創造、④地方のクラシック音楽の普及に努め、さらなる演奏技術の向上と九州におけるクラシック音楽の普及発展を図っていきます。グローバル性とローカル性を備えた活動を継続的に行い、聴衆に九響の多様性を感じてもらうためにも、また演奏を通してアジアとの文化交流を促進しグローバルな展開を図るためにも、今後も助成金を活用させていただきたいと思っております。

## 公益財団法人 九州交響楽団

〒814-0133 福岡県福岡市城南区七隈1丁目11番50号 末永文化センター内  
Tel: 092-822-8855 URL: <http://www.kyukyo.or.jp>



# 18 貞松・浜田バレエ団「創作リサイタル 29」

一般社団法人 貞松・浜田バレエ団

助成金額 18,059 千円

## 活動概要

1965年の結成以来、古典バレエのみならず創作バレエにも積極的に取り組み、バレエ教育の充実発展と後進の育成にも力を注ぐ貞松・浜田バレエ団。現代作品のみの「創作リサイタル」も毎年開催し、これまで文化庁芸術祭大賞、文化庁芸術祭優秀賞などを数多く受賞。日本のコンテンポラリーダンスシーンを牽引している。代表で創立者の貞松融は文化庁長官より表彰。

「創作リサイタル 29」は2017年10月28日、兵庫県神戸文化ホール中ホールにて上演。日本のバレエ団として初演となる巨匠イリ・キリアンの名作「Falling Angels」、コーラ・ボス・クルーセ振付「ENSŌ」世界初演、貞松正一郎振付「Far and Away 遙か遠くへ」世界初演、森優貴振付「死の島 Die Toteninsel」の4作を上演。いずれもバレエ団新作となった4作品を技術・芸術性ともに高いレベルで上演し、レパートリーの充実に繋がる意欲的な公演となった。当公演にて平成29年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞。



▲「創作リサイタル 29」  
「Falling Angels」撮影：古都栄二（テス大阪）



▲「創作リサイタル 29」  
「死の島 Die Toteninsel」撮影：古都栄二（テス大阪）

## 助成を受けて

関西を代表するバレエ団として、創造的かつ質の高い公演活動を目指しています。欧米のバレエ団ではスタンダードですが、クラシックとコンテンポラリー作品を29年間継続して上演しているバレエ団は日本ではほかに見られません。ただ、民間のバレエ団では財政面の安定性を確立させることが必要不可欠です。専門性の高いスタッフと創り上げる作品を、良心的な価格設定で観客の皆様にご覧いただけるように、振興会の助成制度を利用しました。

助成をいただいたおかげで、世界的振付家イリ・キリアン作品の日本初演をはじめ、世界的に見ても高水準といえるプログラムを可能な限り安価に設定（S席5,000円、A席4,000円）でき、日本の皆様に質の高い現代作品を紹介することができました。また、助成によってチラシ作成や雑誌等への広告掲載も可能となり、約8割の集客を実現。一般的には集客が難しい現代作品ですが、県外からのお客様もいらしたことで、小学生の「とても面白かった」というアンケート等、現代作品の観客層が広がっている兆しを感じています。当公演にて平成29年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞して対外的にも認められたことで、一定以上の成果を達成できました。

社会のIT化が進む中、人間が創り上げる舞台芸術は、これに触れる私たちひとりひとりの心を豊かにし、生きていくための活力を与えてくれるものであり、社会全体の活性化に大事な役割を担っていると考えます。今後もより高い専門性を身につけながら、バレエという芸術を通して人の心にエネルギーを届け、また日本のバレエ界の発展に貢献できるよう、質の高い公演活動を目指します。

## 一般社団法人 貞松・浜田バレエ団

〒657-0822 神戸市灘区畑原通 3-6-6

Tel: 078-861-2609 URL: <http://www.sadamatsu-hamada.com>

# 19 ワンツーワークス #23 『消滅寸前（あるいは逃げ出すネズミ）』

株式会社 オフィス ワン・ツー

助成金額 7,953千円

## 活動概要

脚本家・演出家の古城十忍を代表として1986年に結成した「劇団一跡二跳」を2008年に解散した後、2009年にフレキシブルな演劇集団として「ワンツーワークス」を結成。様々な社会問題を題材にした「現代を考える演劇」の創作を活動の中心に据え、新作オリジナル、本邦初演の翻訳作品のほか、日本における「ドキュメンタリーシアター」の普及に努め、その上演を継続的にやっている。

2017年度はワンツーワークス #23『消滅寸前（あるいは逃げ出すネズミ）』（2017年10月20日～29日、12回公演）のほか、#22『アジアン・エイリアン』、#24『PIGHEAD 蠅の王』も助成対象公演となった。



▲「絆の里」の委員が口論する中、座長の楠公は不穏な音を耳にする。  
中央 奥村洋治  
写真撮影：黒木朋子 2017年10月19日・20日ゲネプロ

## 助成を受けて

現代の社会問題を題材にすることが多い当劇団作品は「堅苦しい」「真面目」「シリアス」等のイメージを持たれがちで、集客拡大は一筋縄ではいきません。とはいえ、日本の演劇界を底上げするためにはこうした作品も必要であると考え、『消滅寸前（あるいは逃げ出すネズミ）』も「自治体消滅」というわが国が直面する深刻な問題を扱っているため、助成を得たいと考えました。チケット収入だけでは、劇場費、出演・スタッフ費等の人件費のほか、舞台美術費等の舞台費に割ける予算はわずかです。助成を受けることで質の高い舞台作品を創り、それを観客に安定的・定期的に届けたいと考えています。

本作品では自治体消滅の危機にある地域の現状を知るため、その対策先進地と言われる島根県雲南市、東京都豊島区取材し、全国の過疎対策の実情も参考に戯曲に反映しました。その結果、観客に対し、リアリティをもって「人口減少に伴う諸問題」を考える契機を提供できたと思います。また「過疎化が進む地域」を「進むべき方向を見失った船」に置き換えて表現するなど、観客の想像力を喚起する仕掛けをふんだんに施したことで、演劇作品としてもエンターテインメント性の高い舞台となりました。

広く国民に「演劇を鑑賞する機会」を提供することこそが最大の公益性だと考えます。また当劇団では一貫して同時代の社会問題等をテーマに据えた演劇作品の創作を続けており、現実の社会問題について考えるきっかけを提供することも重要な公益性だと考えています。助成を受けたことにより、そうした公益性の高い公演を実現できました。

今後は地方公共ホール等とも連携を深め、地方公演を実現できるように努力していくつもりです。また、特に評価の定まっていない新作公演では、再演公演に比べて経費が高む傾向にあるため、今後も積極的に助成金を活用して創作活動を継続していきたいと思っています。



▲船員たちが乗り込んでいる「絆丸」は大海原を漂流していると気づく。  
左より 奥村洋治、田村往子、山下夕佳、関谷美香子、長田典之、小山広寿、中村まり子、みよんふぁ(洪明花)、原田佳世子、神山一郎  
写真撮影：黒木朋子 2017年10月19日・20日ゲネプロ

株式会社 オフィス ワン・ツー

〒166-0004 杉並区阿佐谷南 1-8-3-101

Tel: 03-5929-9130 URL: <http://www.onetwo-works.jp>



# 20 第十五回 金春円満井会特別公演

公益社団法人 金春円満井会

助成金額 1,758 千円

## 活動概要

1984年、金春座の古名「円満井座（えんまいざ）」の名をとり「金春円満井会（こんばる えんまいかい）」設立。金春流能楽の伝統を正しく保存するとともに、多数の市民へその普及と振興を図り、日本文化の発展と海外への普及に寄与することを目的としている。1986年、文部大臣より社団法人として認可を受け、2011年には公益社団法人へ移行。現在の理事長はシテ方金春流能楽師・本田光洋。

隔年で金春流独自の演目、稀曲、大曲、秘曲上演の場として「金春円満井会特別公演」を開催しており、2017年には、国立能楽堂にて第15回公演を行った。演目は能「桧垣（ひがき）」、狂言「昆布売（こぶうり）」、半能「石橋 群勢（しゅっしきょう ぐんぜい）」。



▲「石橋 群勢」 深津洋子、村岡聖美、柏崎真由子、林美佐  
撮影：辻井清一郎

## 助成を受けて

当会では、難度が高い曲の上演を主とする「特別公演」、若手発表の場を提供する「定例能」、東西で年間33回の「稽古能」、啓発と流儀の公式記録としての金春月報、謡本の発行を行っています。地味でも大地を潤す地下水の役割を果たすと考えていますが、大量動員大量消費に対応する芸能とは言い難いので、公的な支援を必要としています。集客に苦勞することも多く、助成を受けることでチケットの低額化が可能となりました。その結果として集客効果もあり、能楽界の伝承に関わる台本の見直しから上演に至る作業に、十分な時間と検討・稽古を重ねることができたと考えています。

今回は「桧垣」、「石橋」という能の演目の中でも秘曲とされる曲を上演しました。熊本が舞台の「桧垣」は金春流では35年ぶりの上演で、古い資料に基づき台本に改訂を加え、次世代への伝承という点でも舞台成果が得られたと思います。若い女性から「自身の人生を重ねて観能した」との言葉も聞かれ、この曲がもつ生きることの意味、老いのあり方に、能の「老女物」の深い世界に思いを新たにしました。長寿社会となった現代においても、「老いの中の美」は人間の感性に直接訴える意義があると考えます。また、「石橋」では能の「祝言性」を十分に表現できたのではないのでしょうか。進境著しい女性による舞台成果が得られ、「女流」能という言葉が死語になることを願っていますが、貴重な一歩を進められたと思います。

今後とも定期公演では上演するのが難しい秘曲の伝承、見直しを行うことで、しばらく上演が途絶えている曲や、新たな台本の整備から始める復曲活動を進めていきたいと思っています。ただし、珍しさ、新奇さを追うばかりではなく、通常の能の企画に清新さを求める活動と両輪としたいと考えています。一般に舞台芸術の入場料は高額にならざるを得ず、文化予算・助成金の増額によって、低廉な料金、将来にわたる安定した劇場経営、後継者の舞台活動への集中が図られることを願っています。

今後とも定期公演では上演するのが難しい秘曲の伝承、見直しを行うことで、しばらく上演が途絶えている曲や、新たな台本の整備から始める復曲活動を進めていきたいと思っています。ただし、珍しさ、新奇さを追うばかりではなく、通常の能の企画に清新さを求める活動と両輪としたいと考えています。一般に舞台芸術の入場料は高額にならざるを得ず、文化予算・助成金の増額によって、低廉な料金、将来にわたる安定した劇場経営、後継者の舞台活動への集中が図られることを願っています。



▲「桧垣」 本田光洋 撮影：辻井清一郎

## 公益社団法人 金春円満井会

〒167-0042 東京都杉並区西荻北 2-27-7 アルファ西荻窪 2F

Tel: 03-6913-6714 URL: <https://www.komparu-enmaikai.com>

# 21 2017 芸協らくご・名古屋寄席

公益社団法人 落語芸術協会

助成金額 1,835千円

## 活動概要

落語を主とする寄席芸能の向上普及を図る落語芸術協会は、1930年、その前身となる日本芸術協会として設立。1977年に社団法人の認可を受け、2011年には公益社団法人に移行。

「芸協らくご・名古屋寄席」は、東京落語を名古屋でも寄席定席として、鑑賞機会の充実を目的とした公演であり、名古屋大須地区の会場で、定席に近い番組編成で寄席情緒を気軽に楽しめる公演を目指して開催。2017年には大須演芸場にて、7月（13日～17日）と9月（13日～18日）、いずれも各日2回公演・計22回公演を行った。7月公演は真打昇進披露と、上方落語協会との交流を軸として企画性を提示。9月公演は看板演者を揃えることで広く一般に受け入れられる番組編成が実現した。



▲ 2017年7月公演



▲ 2017年9月公演

## 助成を受けて

東京の定席・大阪の繁昌亭に続き、当協会の名古屋の定席公演を充実させることは、落語文化の振興において中部の要を押さえることであり、重要な寄席普及の取り組みと考えています。多数の出演者で構成される寄席事業において交通費を含めた全体経費は著しく嵩みます。出演料の下支えとなる助成制度により安定した興行開催が可能となるため、今回申請しました。

助成を受けて7月公演では真打昇進披露公演と、東西落語の競演会、9月公演は副会長をはじめ協会理事や人気のトップレベル演者を交えた寄席興行で編成しました。同地区を当協会の拠点の一つとして活動していくことを共通認識として捉え、出演者が多く顔見世できるように努め、協会一丸となって演者と制作サイドが盛り上げるべく取り組んだことが、入場者数などの成果に繋がったと考えます。

同地において当事業を開始した15年前、同地で開かれる落語会の数は限られていました。当事業を続ける中でその数は飛躍的に増え、落語定席も新たに始まりました。同地区の鑑賞環境の向上と落語文化の普及に一定の成果を収めたと考えています。

期間中に天候不良に見舞われ入場者数が伸び悩む側面もあり、寄席事業は常に不安要素を抱えていますが、助成によって一定日数の興行を安定して進めることができました。また、助成公演ということで愛知県・名古屋市の後援もスムーズに取り付けることができ、公共施設でのチラシ配布等広報活動も順調に進められました。今後も助成を活用し、若手演者の活躍と修行の場として同地での開催機会を拡大していくとともに、蓄積した開催ノウハウを生かし、新たな拠点地域の形成に取り組んでいきたいと思っております。

## 公益社団法人 落語芸術協会

〒160-0023 新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2F  
Tel: 03-5909-3080 URL: <http://www.geikyo.com/>



# 22 寝ても覚めても

有限会社 ビターズ・エンド

助成金額 12,000 千円

## 活動概要

ビターズ・エンドは1994年設立。諏訪敦彦、青山真治、河瀬直美、中田秀夫、塩田明彦、山下敦弘、萩生田宏治といった監督作品の製作・配給を手掛けるほか、ダルデンヌ兄弟『サンドラの週末』、ジャ・ジャンクー『山河ノスタルジア』、ポン・ジュノ『母なる証明』、ヤン・イクチュン『息もできない』などの配給、黒沢清『ダゲレオタイプの女』などの共同製作も行っている。

本作は5時間超に及ぶ長編『ハッピーアワー』（2015年）でロカルノ映画祭、ナント三大陸映画祭ほかで主要賞受賞、芸術選奨新人賞を受賞した濱口竜介監督による初の商業ベース長編として、柴崎友香の原作を東出昌大主演により映画化。2017年5月より準備開始、撮影（34日間）、編集・仕上げ（167日間）を経て、2018年2月に初号試写。第71回カンヌ国際映画祭コンペティション部門に正式出品された。2018年9月1日より劇場公開。上映時間119分。



▲『寝ても覚めても』撮影風景



▲『寝ても覚めても』撮影風景

## 助成を受けて

世界中の才能ある監督の作品を製作、配給することを指針とする弊社では、過去に『キャッチボール屋』（2005年／大崎章監督）、『ユキとニナ』（2008年／諏訪敦彦監督）等で当助成金を受けています。今回も助成によって撮影及び仕上げ期間を十分に確保できたことで、完成度が高く、世界に通用する作品に仕上げることができました。

国内外で新作を渴望されている濱口竜介監督が初めて商業ベースで撮る長編映画として、作家性と商業性の両立を図った本作では、プロの俳優を起用し、監督が熱望していた柴崎友香の原作小説を映画化しました。一人の女性と二人の男性との恋愛映画であると同時に、周囲の登場人物や約8年間に及ぶ日本社会をまるごと描くことに成功しています。特に、虚構性の高い設定の中で登場人物たちをリアルな人間として描くことで、濱口監督の世界観をより広い層に届けられる作品となりました。監督の作家性・作品のクオリティを保ちつつ、国内外で広く観られることを念頭に置いたことは、今後の日本映画・日本人監督の指針となるに違いありません。共同製作者として『あん』『淵に立つ』を手掛けたフランスのcomme des cinemas社が参加し、当初より海外でも公開されることを想定した作品づくりを行うことができました。

本作はテアトル新宿等東京のアート系劇場とシネコンを組み合わせ、2018年9月1日から12月下旬まで全国約80館で順次公開予定です。バリアフリー字幕、音声ガイド版も制作することにより、さらに上映・鑑賞の機会を広げていきたいと考えています。

## 有限会社 ビターズ・エンド

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-26-10 ネクスト渋谷 2F

Tel: 03-5774-0210 URL: www.bitters.co.jp

# 23 フジコ・ヘミングの時間

株式会社 祭

助成金額 2,000 千円

## 活動概要

2000年設立の祭（まつり）は、『さよならみどりちゃん』『蘇りの血』『赤い季節』などの日本映画のほか、『ミッシェル・ガン・エレファント“THEE MOVIE”-LAST HEAVEN-031011』『BUMP OF CHICKEN“WILLPOLIS 2014”劇場版』といった音楽ドキュメンタリーなどを手掛ける制作会社である。

『フジコ・ヘミングの時間』は、世界的に活躍するピアニスト、フジコ・ヘミングの足跡と、その数奇な運命を辿る人生から紡がれる演奏や言葉を約2年にわたる取材を通して記録したドキュメンタリー映画。少女のような素顔と、80代にしてなお世界中を飛び回る人気演奏家としての姿や言葉が、高齢社会を生きるヒントを投げかける。小松莊一良監督。上映時間115分。2018年6月16日よりシネスイッチ銀座ほかで全国公開された（配給：日活株式会社）。



▲『フジコ・ヘミングの時間』



▲『フジコ・ヘミングの時間』

## 助成を受けて

今作は劇場公開作品とはいえ、ドキュメンタリー映画で制作費を確保するのが、劇映画に比べて難しい中で、記録映画として、被写体に密着する行動範囲のある程度キープした質の作品にしたいと考えておりました。海外に活動・居住拠点を置くヘミング氏の生活の一部を描くために海外撮影は必要不可欠であり、先行して製作をスタートさせました。映画ならではのスペシャルな視点で捉えられるコンサート収録にも資金が必要ですが、質の高いコンテンツ作成のために助成を受けられれば実現できるが増えるという思いから、申請させていただきました。結果的に本作の軸となっているコンサート収録に踏み切ることができ、充実した作品に仕上がりました。また、編集作業の効率化も図ることができ、助成をいただいた効果は大きかったと思います。

長期にわたる撮影で得た膨大な素材を、ドキュメンタリーとしてどうバランスよくまとめるかが課題でした。コアなクラシックファン向けに絞りすぎても多くの人の心に響くものにはならず、かといって“薄味”になり過ぎてはよくない。その落としどころはかなり吟味しました。

この映画は苦難を乗り越え、60代で世界に見いだされた奇跡のピアニスト、ヘミング氏の生き様、素顔に迫る作品ですが、高齢社会を迎えた日本において、80代にして今なお輝き続ける方の作品だからこそ、同年代のシニア層にも元気を与えていると思います。さらに、どの世代の方々にもそれぞれエネルギーを持ち帰っていただける、生きるヒントが詰まっている作品である点において、公益性があると自負しています。

芸術文化への意識が高い層に受け入れられただけでなく、今回助成対象作品の刻印があることで、より多くの方々の興味を喚起することができました。今後も社会性のある作品づくりに取り組みながら、助成金も活用させていただきたいと思っています。

## 株式会社 祭

〒107-0062 東京都港区南青山 3-2-5 南青山シティビル 4F  
Tel: 03-5414-2112 URL: www.mazri.com



# 24 さよならの朝に約束の花をかざろう

株式会社 バンダイナムコアーツ

助成金額 21,000千円

## 活動概要

バンダイナムコアーツは映像コンテンツ等の企画・製作・販売で実績のあるバンダイビジュアルを前身として、2018年4月に発足。日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞を受賞した『この世界の片隅に』（文化庁文化芸術振興費補助金助成事業）等、過去の助成対象作品でも数多くの高い評価を得ている。

『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』『心が叫びたがってるんだ。』の脚本で知られる岡田麿里のオリジナル脚本・初監督作『さよならの朝に約束の花をかざろう』は、ファンタジー世界を舞台に、寿命の異なる種族間の悲劇的な設定を用いて「時の流れと人の繋がり」をテーマに一途な人間ドラマを描いた。2014年6月よりシナリオ製作開始、2017年12月に初号試写を実施。2018年2月24日より全国76スクリーンで劇場公開され、好評につき公開スクリーンは93まで拡大した。上映時間115分。



▲『さよならの朝に約束の花をかざろう』



▲『さよならの朝に約束の花をかざろう』

## 助成を受けて

劇場アニメーションの製作は企画立案から完成まで非常に長い時間がかかります。クオリティ維持、内容変更によって生じる製作スケジュールの変更等に備えた予算管理を見据え、助成金を申請しました。ベストセラー小説や人気漫画原作の映像化が多い昨今、質の高いオリジナル作品が書ける脚本家が監督としても才能を生かすことは、日本映画や文化の向上と発展に大きな意義があります。この挑戦的な企画を実現するため、アニメーション製作を担当したピーエーワークスの堀川憲司氏が現場プロデューサーとして立ち、全面的に岡田麿里氏が表現したいことを追求できる現場が出来上がりました。現在の日本アニメーション界を支える名だたる方々に参加していただき、クオリティの高い作品が完成したと自負しています。プロモーションには難しい面もありましたが、時の流れと人の繋がりが紡ぐ本当の愛の物語を描いた本作は観る人の心を揺さぶり、記憶に残る作品になりました。

助成を受けたことで、作品のクオリティUPのための製作工程増や、ストーリーやキャラクターの心情をより観客に伝えるためのシーン追加に対応でき、演出サイドが伝えたい内容をより良く感じていただける形が実現しました。また、バリアフリー字幕付き上映によってより幅広い方々に作品を楽しんでいただけるようになったことは、高い公益性に繋がっていると考えます。今回の助成を受けたことで、日本映画と日本文化の向上に貢献できる作品が誕生したと思っています。

本作は第21回上海国際映画祭にて金爵賞：アニメーション最優秀作品賞を受賞し、国内外で高く評価していただきました。今後もより多くの人に『さよ朝』を知っていただくと共に、助成金も活用させていただきつつ、国内外における日本のアニメーションの認知・発展に貢献できる作品づくりを続けてまいります。

## 株式会社 バンダイナムコアーツ

〒150-0013 渋谷区恵比寿 1-18-14 恵比寿ファーストスクエア

Tel: 03-6837-2600 URL: <https://www.bandavisual.co.jp/>

# 25 ふうせんいぬティニー なんだかふしぎなきょうりゅうのくに！

株式会社 CRAFTAR

助成金額 3,000千円

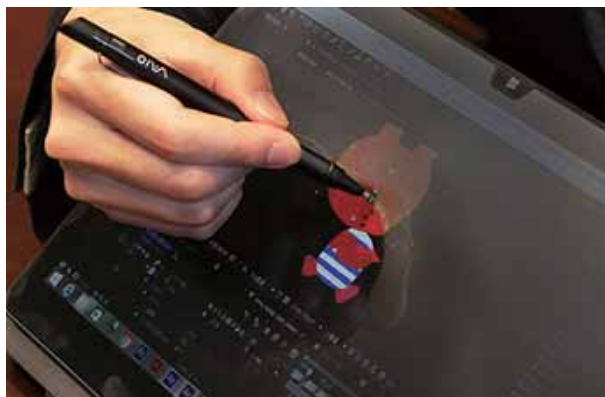
## 活動概要

株式会社 CRAFTAR（クラフター）は、2011年、アニメーションの企画・制作ノウハウを広告に活用するため、STEVE N' STEVENとして設立され2016年、現在の社名に変更。2015年公開の岩井俊二監督による長編『花とアリス殺人事件』（文化庁文化芸術振興費補助金助成事業）は国内外の映画祭等で受賞・ノミネート、2016年公開の短編映画『ムーム』は各国際映画祭で32カ所受賞、130カ所ノミネートされている。

川村元気・佐野研二郎原作の人気絵本シリーズのテレビアニメ版を劇場化した本作は、主人公ティニーと仲間たちによる冒険活劇。2016年7月より製作準備に入り、2017年7月に完成。同年8月25日より全国100館で上映。上映時間46分2秒（本編）、5分24秒（エンディング）。



▲制作風景



▲制作風景

## 助成を受けて

2014年度作品『花とアリス殺人事件』で助成金を受けることができた際に資金面での強化が可能となり、質の高いアニメーション作品を発表できました。2Dアニメーションを3D化する「フラット3D」というハイクオリティと少人数化を両立するオリジナル手法を開発した本作でも、さらに高品質なアニメーション作品製作のために助成金を申請しました。

NHK Eテレで大好評を博した『ふうせんいぬティニー』は、未就学児を中心とした子供をターゲットにした5分間のアニメーションでしたが、劇場版は約45分です。映画館に来てもらうためには劇場版としての格を持った映像、音楽、ストーリーづくりが不可欠であり、フラット3D技術を活用した「きょうりゅうの国」での表現や個性的な新キャラクターを登場させ、45分間飽きさせない工夫を凝らしました。またターゲットの気持ちに届く歌手として『おかあさんといっしょ』で知られる横山だいすけさんを起用したことで数多くのメディアで取り上げられ、「親子で映画館デビューは本作で！」と謳って親子へのアプローチを図った結果、劇場アンケートで9割を超える満足度を獲得しました。助成を受けて高品質な作品づくりを徹底できたことで、親子の絆や家族のやさしさという普遍的かつ社会的テーマを広い世代に伝えることができた実感しています。

従来のアニメーションではセル画を中心とした手作業によるアナログ的な要素が多く、熟練した職人の技術と時間を要するものでした。当社が推進する3DCGアニメーションは最新デジタル技術を取り入れることでこれまでにない表現や作業の効率化が可能となります。結果としてアニメーション業界の次世代スタンダードを作り、業界全体への貢献という公益性に繋がると考えています。今後もコンテンツ充実を図る上で該当する助成金もぜひ活用させていただきながら、常に新しい手法にチャレンジを続けていきたいと思っています。

## 株式会社 CRAFTAR

〒107-6101 港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル  
Tel: 03-6277-7727 URL: <http://www.craftar.co.jp/>



# 芸術文化振興基金への御案内

芸術文化振興基金は、国の出資金と企業等からの寄附金を原資として創設され、我が国の文化芸術活動に助成し芸術文化の振興普及に寄与しています。

この基金の創設にあたり、その趣旨に御賛同の上、多額の御寄附をいただいた企業等は次のとおりです。御支援に深く感謝いたします。

## 支援企業グループ

<b>建設</b>	積水化学工業(株) 第一三共(株) 三菱ケミカル(株)	<b>印刷</b>	三井住友海上火災保険(株) 三井生命保険(株) 明治安田生命保険相互会社
青木あすなろ建設(株) (株)安藤・間 (株)大林組 鹿島建設(株) (株)熊谷組 佐藤工業(株) 清水建設(株) 積水ハウス(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 戸田建設(株) 飛鳥建設(株) 西松建設(株) (株)長谷工エコーポレーション (株)フジタ 前田建設工業(株)	<b>石油・鉄鋼</b> 出光興産(株) 新日鐵住金(株)	<b>百貨店</b> (株)高島屋 (株)三越伊勢丹	<b>不動産</b> 住友不動産(株) 東急不動産(株) 三井不動産(株) 三菱地所(株)
<b>食品</b>	<b>機械・精密機械</b> 日本精工(株) HOYA(株) (株)リコー	<b>銀行</b> (株)新生銀行 (株)みずほ銀行 みずほ信託銀行(株) (株)三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) (株)三菱UFJ銀行 三菱UFJ信託銀行(株) (株)横浜銀行 (株)りそな銀行	<b>輸送</b> カトーレック(株) 全日本空輸(株) 東京急行電鉄(株) 日本航空(株)
アサヒグループホールディングス(株) 味の素(株) キッコーマン(株) 麒麟ホールディングス(株) サッポロホールディングス(株) サントリーホールディングス(株) 雪印メグミルク(株)	<b>電気機器</b> 沖電気工業(株) キヤノン(株) コニカミノルタ(株) (株)JVCケンウッド シャープ(株) ソニー(株) TDK(株) (株)東芝 日本コロムビア(株) 日本アイ・ビー・エム(株) 日本電気(株) パイオニア(株) パナソニック(株) (株)日立製作所 富士通(株) 三菱電機(株) (株)村田製作所	<b>証券</b> SMBC日興証券(株) (株)大和証券グループ本社 野村證券(株) みずほ証券(株) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) 山一証券(株)	<b>観光</b> (株)JTB 藤田観光(株)
<b>繊維</b>	<b>輸送用機器</b> トヨタ自動車(株) 日産自動車(株) 本田技研工業(株) 三菱重工業(株)	<b>保険</b> アクサ生命保険(株) 朝日生命保険相互会社 ジブラルタ生命保険(株) 住友生命保険相互会社 損害保険ジャパン日本興亜(株) 第一生命保険(株) 大同生命保険(株) 太陽生命保険(株) T&Dフィナンシャル生命保険(株) 東京海上日動火災保険(株) 日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社	<b>出版</b> (株)講談社 (株)小学館
東洋紡(株) 東レ(株) (株)ワコールホールディングス	<b>楽器</b> (株)河合楽器製作所 ヤマハ(株)		<b>広告</b> (株)電通 (株)博報堂
<b>パルプ・紙</b>			<b>通信・その他</b> (公財)清栄会 (公財)全国税理士共栄会文化財団 日本たばこ産業(株) 東日本電信電話(株)
<b>化学・医薬</b>			(平成30年7月現在、順不同)
花王(株) (株)資生堂 昭和電工(株)			



# 芸術文化振興基金による助成

## 目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行います。

## 助成対象活動

### ◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

### ◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

### ◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

※詳細は、ホームページ <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。



## 目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動、劇場・音楽堂等が主体となって行う実演芸術の創造発信等、並びに優れた日本映画の製作活動を支援することを目的としています。

なお、平成31年度より、国際芸術交流支援事業に関する助成を行います。

## 助成対象活動

### ◆舞台芸術創造活動活性化事業（※）

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

（※）助成の形態には、活動毎に助成を行う公演事業支援と、複数の活動を一括して助成する年間活動支援があります。

助成金の額の算定方式の類型には、①芸術水準の向上を図るとともに、芸術団体の集客努力を促し、より多くの国民に優れた舞台芸術を提供するため、入場料収入に応じた支援を行う「入場料収入連動型」と、②芸術団体の芸術水準の向上となる公演の中でも、特に企画性の高い意欲的な芸術活動について、創造活動に対する支援を行う「創造活動経費支援型」があります。

### ◆劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
- 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業
- 共同制作支援事業
- 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業

### ◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画

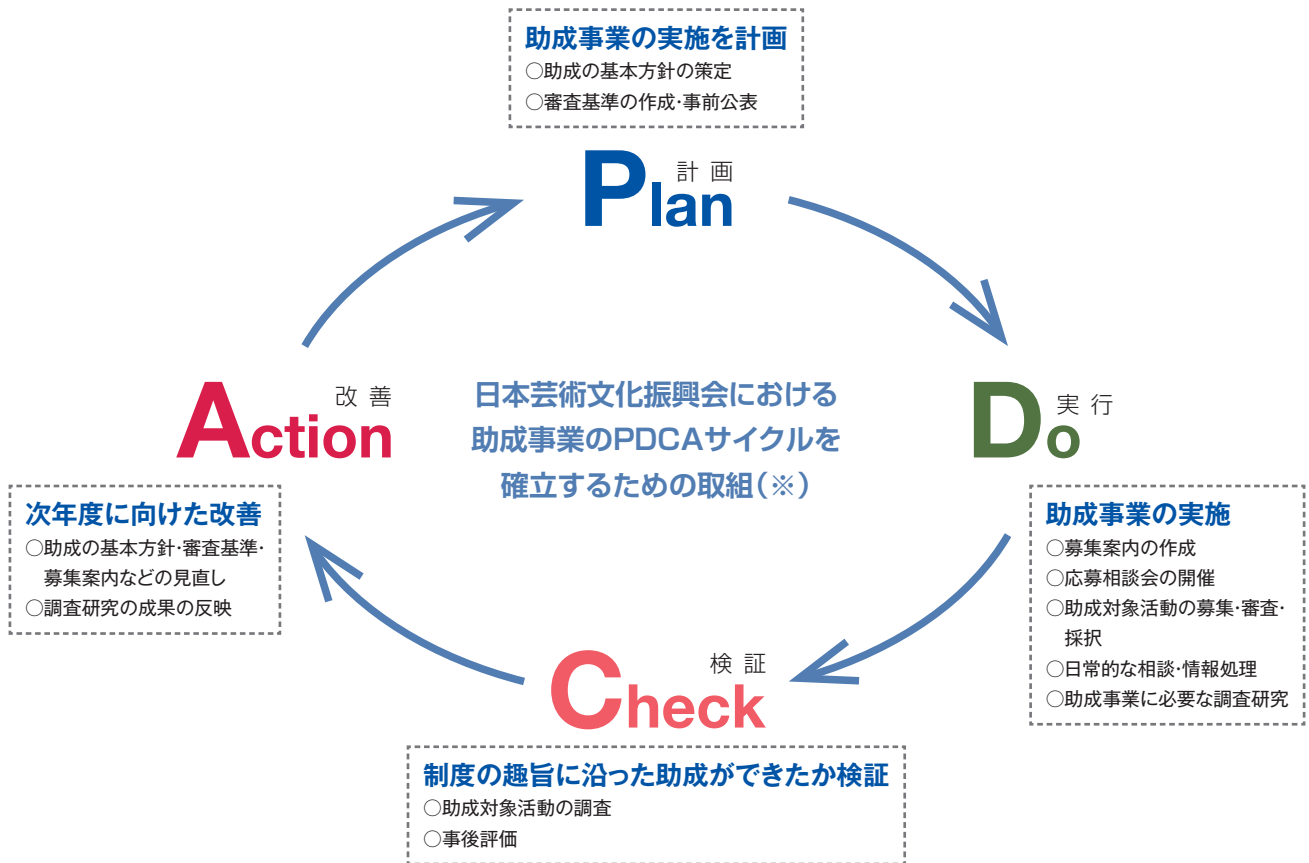
※平成31年度より助成開始

### ◆国際芸術交流支援事業

- 海外公演
- 国際共同制作公演（海外公演・国内公演）
- 国際フェスティバル

# 文化芸術活動に対する 助成システムの機能強化について

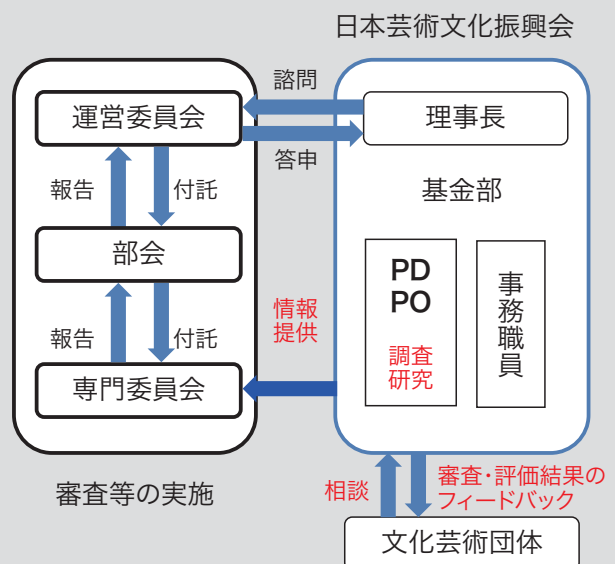
日本芸術文化振興会では、文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に取り組んでいます。具体的には、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について、専門家であるプログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、その知見を活かして助言、審査、事後評価及び調査研究等の充実を進めています。



※ PDCA サイクルとは：計画の作成、計画に沿った実行、実行の結果を目標と比べる検証、発見された課題に対する改善の4段階を繰り返すことで、事業の質の向上を目指す取組です。

## 取組の実施体制

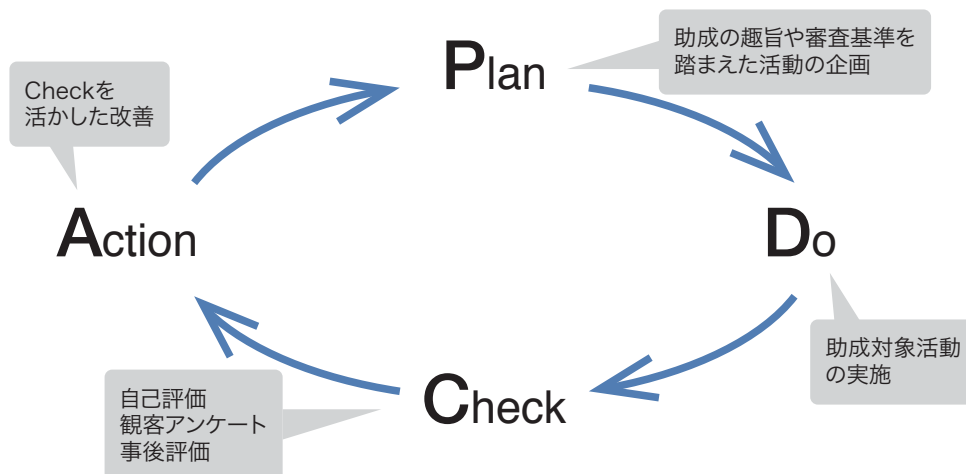
芸術文化振興基金運営委員会は、助成対象活動について、採択に係る審査のほか、事後評価に関する審議及び決定を行います。PD・POは、専門的な視点から運営委員会などに対して情報提供を行うとともに、審査・評価の結果を文化芸術団体にフィードバックします。





## 助成を受けた文化芸術団体も、団体としてのPDCAサイクルが必要です。

助成対象活動の実施が文化庁の政策目的の実現につながったかどうかについて、文化芸術団体自らが評価を行い、事後評価の結果も踏まえながら、改善を行っていく必要があります。



## 文化芸術への公的支援に関する考え方はどう変化していますか？

平成23年2月8日に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第3次基本方針）では、「従来、社会的費用としてとらえる向きもあった文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す。」とされました。

したがって、助成金の交付対象として採択するかどうかを判断する場合には、助成金の趣旨に沿った活動かどうかに加え、「戦略的な投資」にふさわしい「社会的必要性」を踏まえた活動計画になっているかどうかを考慮することになります。

当振興会の助成金に応募される文化芸術団体には、助成金交付要望書を作成するに当たり、当該活動の展開を通じて、社会にどのような波及効果を及ぼすことが見込まれるのか、分かりやすく説明していただくこととなります。

詳しくはHPをご覧ください→ <http://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artscouncil.html>

## 助成システムの充実のための具体的な取組は？

プログラムディレクター（PD）・プログラムオフィサー（PO）制度	文化芸術に関する専門家であるPD・POを配置し、その専門的知見を活かして、文化芸術活動に関する助成システムの充実を進めています。
審査基準の作成・事前公表	要望書提出期間の前に、日本芸術文化振興会のホームページに採択に当たっての審査基準を公表していますので、文化芸術団体は、各助成金の目的や、活動内容に何が期待されているかを知ることができます。
文化芸術団体からの相談への対応	活動の企画に当たって不明な点や、参考となる先行事例等についてPD・POに相談できるよう、日本芸術文化振興会のホームページに連絡先を掲載しています。また、全国で応募相談会も開催しています。
助成対象活動の調査	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかを検証するため、PD・PO等が実際に公演に赴き、調査を行っています。
事後評価の実施	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかについて、公演調査の結果や実績報告書等に基づき、評価を行っています。評価結果はPD・POを通じて各団体にお伝えしますので、次回の要望に向けた改善に活かしてください。
調査研究の実施	助成事業の効果の検証や改善に資する資料とするため、調査研究に取り組んでいます。

発行日 \_\_\_\_\_  
平成30年9月30日

編集発行 \_\_\_\_\_  
独立行政法人  
日本芸術文化振興会 基金部  
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1  
☎03-3265-6302  
URL <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html>

